取扱説明書

スタンダードシステム編

準備

使いかた

主な仕様

デジタル会議システム

PM-1000シリーズ

おことわり

マスターターミナルユニット**PM-T10L**は、マイクの長さが異なるだけで他の仕様は**PM-T10**と同じです。本説明書では**PM-T10**と**PM-T10L**をまとめて、**PM-T10**と表記しています。
同様に、メンバーターミナルユニット**PM-T11L**は、マイクの長さが異なるだけで他の仕様は**PM-T11**と同じです。本説明書では、**PM-T11**と**PM-T11L**をまとめて**PM-T11**と表記しています。

－お買い上げありがとうございます－
ご使用の前にこの**「取扱説明書」**をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

私たちは環境・資源をたいせつにしています。
この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙（古紙100%）を使用しています。

SS961484-002

もくじ　取扱説明書　スタンダードシステム編

おことわり

マスターターミナルユニット**PM-T10L**は、マイクの長さが異なるだけで他の仕様は**PM-T10**と同じです。本説明書では **PM-T10** と **PM-T10L** をまとめて、**PM-T10** と表記しています。
同様に、メンバーターミナルユニット**PM-T11L**は、マイクの長さが異なるだけで他の仕様は**PM-T11**と同じです。本説明書では、**PM-T11** と **PM-T11L** をまとめて **PM-T11** と表記しています。

正しくお使いいただくために

■ 安全上のご注意

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることをお知らせするものです。
図の中や近傍に具体的な注意内容が示されています。

⃠記号は、禁止の行為であることをお知らせするものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容が示されています。

⚠ 警告

● 万一、煙がでている、へんなにおいがするときは、すぐに電源を切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。
煙が出なくなるのを確認して、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口に修理をご依頼ください。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードの継ぎ足しはしない。火災や感電の原因となります。

- セット内部に触れることは危険なうえ故障の原因となります。内部の点検・調整は、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口へお任せください。

分解禁止

- 機器の通風孔をふさがない。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり火災の原因になることがあります。

- 本機は日本国内専用です。
必ず商用電源AC100V 50/60Hzでご使用ください。

- 万一、水や異物が機器の内部に入った場合は、まず機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。その後、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- この機器の開口部（通風孔、MDの挿入口など）から内部に金属類 や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしない。火災・感電の原因となります。

- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。その後、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- この機器を分解・改造しない。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器、または小さな金属物を置かない。こぼれたり、中に入った場合、 火災・感電の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、機器に接続されている接続線（アンテナ線、電話線、その他の接続線）や電源プラグには触れない。感電の原因となります。

接触禁止

■ 安全上のご注意（つづき）

⚠ 注意

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っぱらない。かならずプラグを持って抜いてください。

- 製品に悪い影響を与えますので、ほこりや振動の多い所には置かない。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近付けない。
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 機器間の接続線に足など引っかけないようご注意ください。つまずいてけがの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にする。突然大きな音がでてスピーカーを破損したり聴力障害などの原因となることがあります。

- 長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- 移動させる場合は、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続線など外部の接続線を外す。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

■ 使用上のご注意

- 無停電電源装置（UPS）内のバッテリーの充電が不足していると、万一のときに十分な停電保護ができません。バッテリーの充電は、無停電電源装置（UPS）が商用電源で入電しているとき行われますので、以下のことを守ってください。

  （1）配電盤のブレーカーなどによりシステム全体の電源を切る場合は、本書の「7. デジタル会議システムの電源の切りかた」のように、無停電電源装置（UPS）の電源を切り、その後、配電盤のブレーカーを切ってください。

  （2）無停電電源装置（UPS）のバッテリーは自然放電しますので、長時間このシステムをご使用にならなかった場合は、使用の数時間前から電源を入れ無停電電源装置（UPS）のバッテリーを充電してください。（無停電電源装置（UPS）の仕様により、3～6ヶ月ごとに、数時間の充電を行なってください。）

- 接続は必ず電源を切った状態で行なってください。
機器の故障や誤動作の原因になることがあります。

準　　備

1. デジタル会議システムについて

1.1 デジタル会議システムの構成機器について

■ システム例

1.1 デジタル会議システムの構成機器について（つづき）

準備

■ デジタルコントロールユニット PM-M110 EIA 1H

ターミナルユニット**PM-T10/T11**を制御するコントローラーです。内部のデジタルミキサー(デジタルアナウンスプロセッサー、デジタルハウリングサプレッサー等)により、ターミナルユニットのマイク、集音用マイク等の音声を選択またはミキシングし、明瞭・快適な音に変換したあと、ターミナルユニットのモニター、MD レコーダー **PM-R30**、パワーアンプへ出力します。

■ マスターターミナルユニット PM-T10

議長、進行役用のユニットです。発言ボタン、発言用マイク、モニタースピーカー、と議長以外のユニットのマイクをすべて切ることができる発言者解除ボタンを装備しています。

■ メンバーターミナルユニット PM-T11

参加者用のユニットで発言ボタン、発言用マイク、モニタースピーカーを装備しています。

■ MD レコーダー PM-R30 EIA 2H

会議を録音するダブルMDレコーダーです。会議の発言内容を２枚のディスクに交互録音することで長時間の記録ができます。

■ 延長ケーブル PM-CN5/CN10

ターミナルユニット**PM-T10/T11**の会議ライン出力ケーブルの長さが短いときに使用する延長ケーブルです。5mと10mの長さのケーブルがあります。

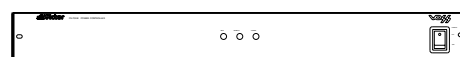
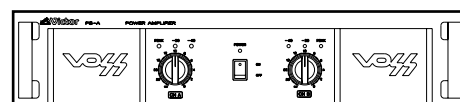
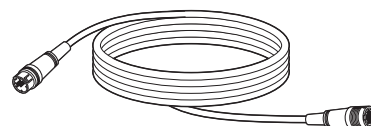
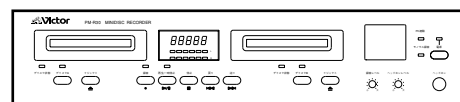
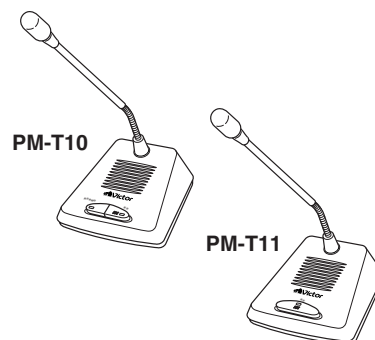
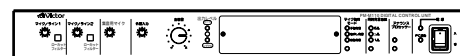
■ 無停電電源装置（UPS）

停電時にデジタルコントロールユニット **PM-M110**、MD レコーダー **PM-R30** に電源(AC 100V)を供給するためのユニットです。

■ パワーアンプ

場内や傍聴席スピーカーへ音声を出力するためのパワーアンプです。

■ パワーコントローラー PS-P32-B EIA 1H

機器に必要な電源(AC 100V)を供給する電源ユニットです。

1.2　マイク動作モードとその使いかた

デジタル会議システム **PM-1000** シリーズでは、マイクの入／切の方法やマイクの優先度により３つのマイク動作モード（手動発言モード、後押し発言モード、自動発言モード）があります。

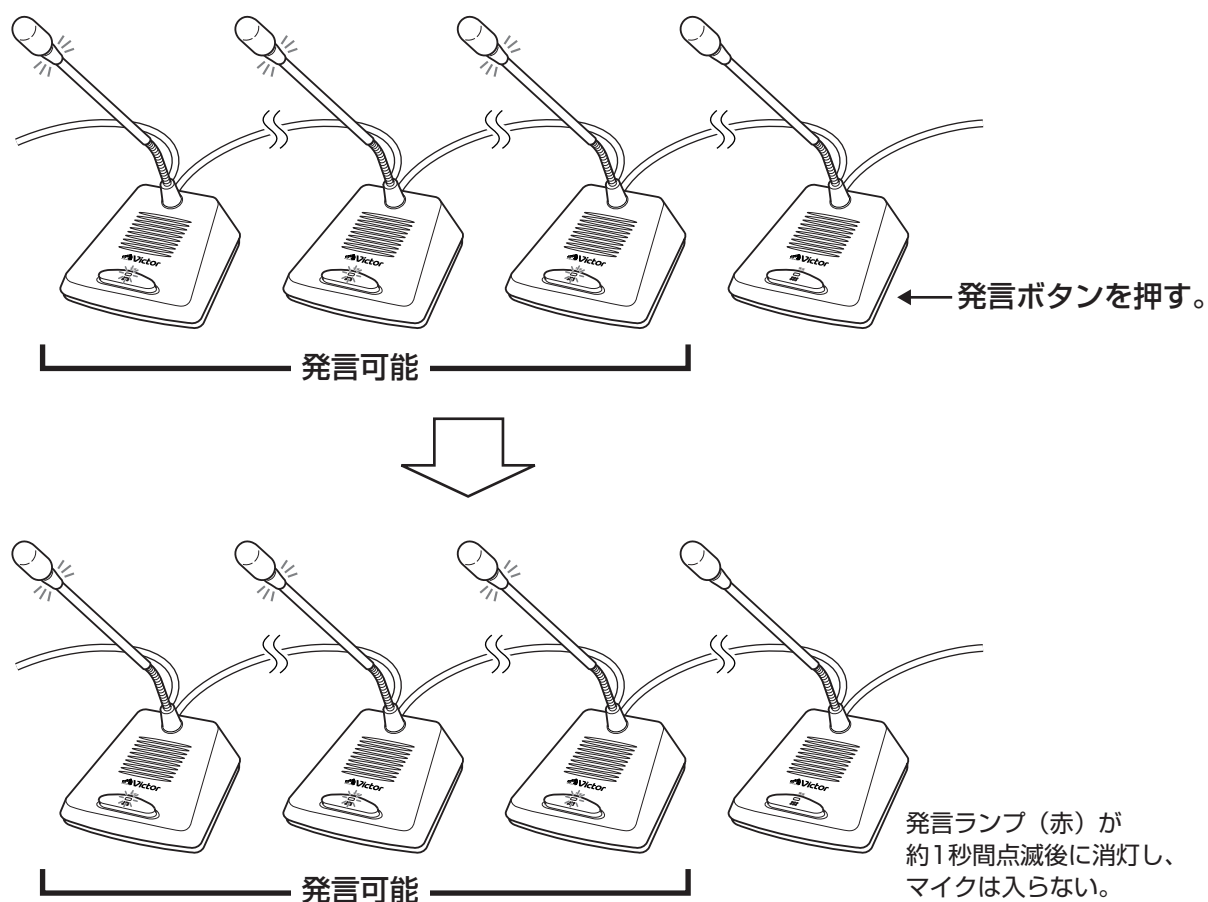
■ 手動発言モード

マスターターミナルユニット PM-T10 の動作

発言ボタンを押すことでマイクを入／切します。
マイクが入っているときは、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
同時発言者数には含まれず、制限も受けません。

メンバーターミナルユニット PM-T11 の動作

発言ボタンを押すことでマイクを入／切します。
マイクが入っているときは、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
発言者数が設定した同時発言者数に達している場合はあらたに追加発言できません。

（例）同時発言者数3人の場合

1.2 マイク動作モードとその使いかた（つづき）

■ 後押し発言モード

マスターターミナルユニット PM-T10 の動作

発言ボタンを押すことでマイクを入／切します。
マイクが入っているときは、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
同時発言者数には含まれず、制限も受けません。

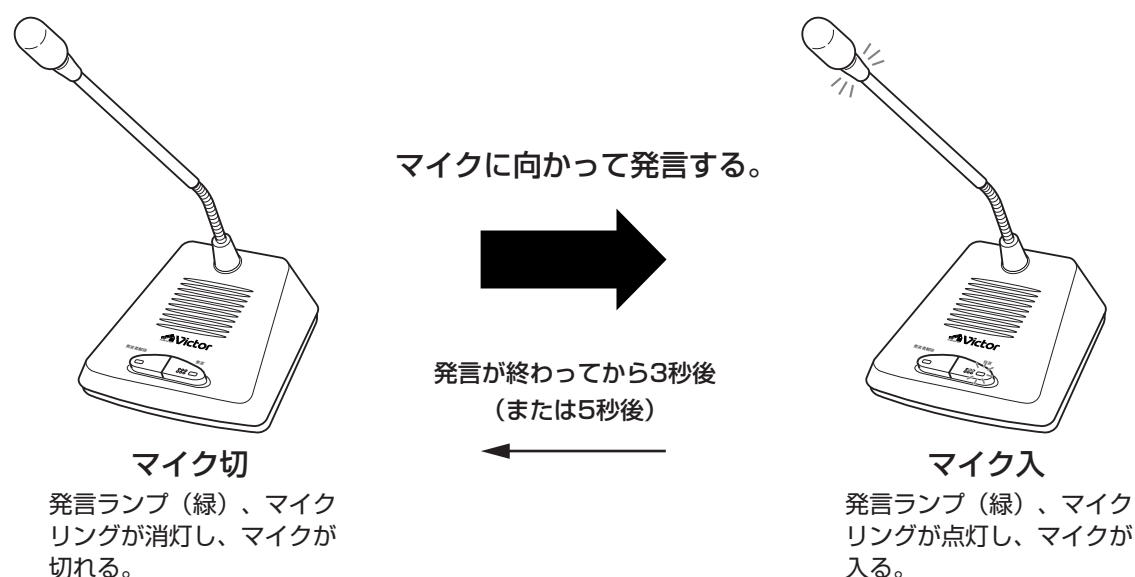
メンバーターミナルユニット PM-T11 の動作

発言ボタンを押すことでマイクを入／切します。
マイクが入っているときは、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
発言者数が設定した同時発言者数に達している場合はあらたに発言ボタンを押したメンバーターミナルユニット**PM-T11**の発言が可能になり、かわりに最初から使用していたメンバーターミナルユニット **PM-T11** の発言が解除されます。

（例）同時発言者数3人の場合

1.2 マイク動作モードとその使いかた（つづき）

■ 自動発言モード

マイクで集音した音声を感知してマイクが入ります。数秒間、マイクに音声が入らないとマイクは自動的に切れます。マイクが入っている場合、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
マスターターミナルユニット **PM-T10**、メンバーターミナルユニット **PM-T11** ともに同じ動作です。

自動発言モードを使用するにあたって

・自動発言モードでは、マイクへの入力音声を感知することによって、マイクが入ります。発言者はマイクから 20 cm ～ 30 cm の距離から発言してください。

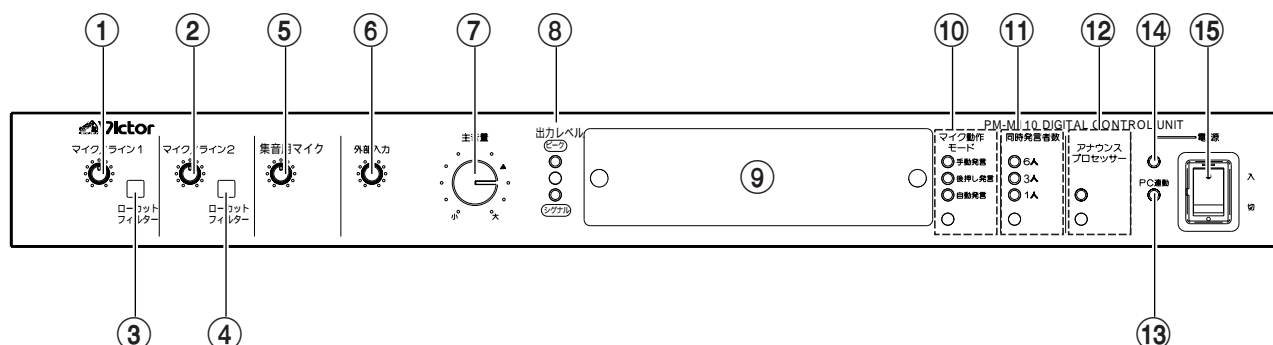
・自動発言モードでは、ハウリングを防ぐために自動的にオートゲイン機能とコンプレッサー機能が動作します。
同時に複数の発言者がいる場合は、オートゲイン機能により発言者の音声が小さくなります。また、発言者が大きな声で発言しても、コンプレッサー機能によりモニタースピーカーや場内スピーカーの音量は一定の音量まで下がります。
オートゲイン機能　：同時に複数のターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクが入っているときに、入っているマイクの本数によりマイクのゲインを下げる機能です。
コンプレッサー機能：ターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクに入った大きい音を、一定の音量まで小さくする機能です。

・録音した時に、発言の始まりが切れてしまうことがあります。また、主となる発言者以外の発言音声を録音してしまうことがあります。
重要な会議では、手動発言モードまたは後押し発言モードをご使用ください。

設置上の注意

・周囲の発言を感知しないように、それぞれのターミナルユニット **PM-T10/T11** の間隔を十分とって設置してください。
・モニタースピーカーや場内スピーカーの音声を感知しないように、デジタルコントロールユニット **PM-M110** の主音量ボリュームを調節してご使用ください。

1.3 デジタルコントロールユニット PM-M110 の各部のなまえとはたらき

■ フロントパネル部

①、② マイク／ライン 1,2 ボリューム
マイク／ライン入力 1,2 の音量を調節します。

③、④ ローカットフィルター 1,2 スイッチ
マイク／ライン入力 1,2 にマイクを接続するときに使用し、聞きやすい音声にします。

⑤ 集音用マイクボリューム
集音用マイクの音量を調節します。

⑥ 外部入力ボリューム
外部入力のレベルを調節します。

⑦ 主音量ボリューム
会議ラインモニター出力(ターミナルユニット **PM-T10/T11** へ送るモニター出力)、パワーアンプ出力 1,2、外部出力 1,2、のレベルを調節します。

⑧ 出力レベル表示
会議ラインモニター出力のレベルを表示します。
緑ランプ 2 個が点灯するレベルが基準です。

点灯レベル：	ランプ３個(緑２赤１) 12dBs 以上
	ランプ２個(緑２) 2dBs ～ 12dBs
	ランプ１個(緑１) -18dBs ～ 2dBs

⑨ カバーパネル
開口部内のボリューム、スイッチの調整、設定値を保護するパネルです。

⑩ マイク動作モードボタン、ランプ
マイクの入／切を制御する方式を選択します。ボタンを押すごとにランプの点灯が移動し、マイク動作モードの変更ができます。

⑪ 同時発言者数ボタン、ランプ
同時にマイクを入れることができるメンバーターミナルユニット **PM-T11** の台数を設定します。必要最小限の数に設定したほうが、発言が聞きとりやすくなります。
ボタンを押すごとにランプの点灯が移動し、同時発言者数を変更できます。自動発言モードでは同時発言者数の制限がなくなるため、ランプは 3 個とも消えます。

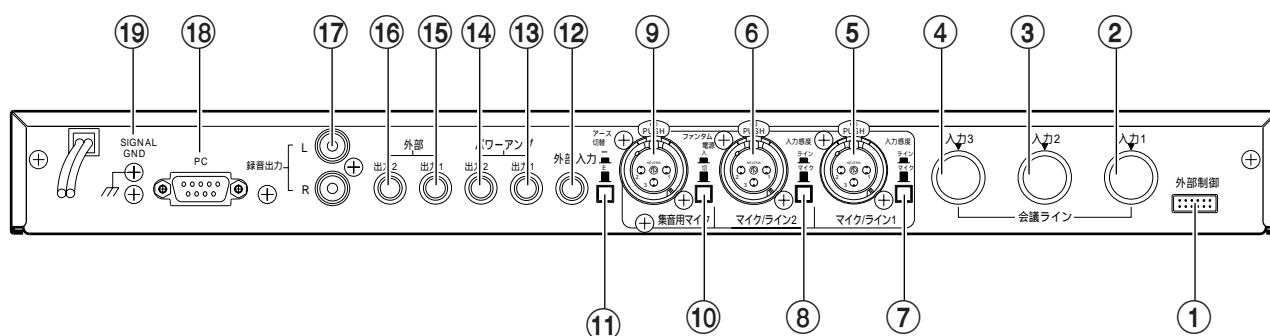
⑫ デジタルアナウンスプロセッサーボタン、ランプ
デジタル処理により、小さい音を大きく、大きい音を小さくして発言者の音量の差を低減する機能です。ボタンを押すごとにランプが点灯／消灯し、点灯中に動作します。

⑬ PC 連動ランプ
本システムでは点灯しません。システムアップ時、使用します。

⑭ 電源ランプ
入電後しばらく点滅した後、点灯します。点滅中は接続を確認しているため使用できません。
(ターミナルユニット **PM-T10/T11** を 20 台接続時、約 20 秒間点滅します。)

⑮ 電源スイッチ
本機とターミナルユニット **PM-T10/T11** の電源が入ります。

1.3 デジタルコントロールユニットPM-M110の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ リアパネル部

① 外部制御コネクター
添付のコネクターワイヤーを使って、外部の機器と必要に応じて接続します。

② ～ ④ 会議ライン入力 1 ～ 3 コネクター
ターミナルユニット**PM-T10/T11**を順送り接続します。1個のコネクターに接続できるターミナルユニット**PM-T10/T11**は20 台までです。

⑤、⑥ マイク／ライン 1,2 入力
ターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイク以外にマイクを設置する場合、ここに接続します。またオーディオミキサーなどの出力も接続することができます。

⑦、⑧ マイク／ライン切換スイッチ（マイク：-60dBs　2k Ω平衡　ライン：-10dBs　10k Ω平衡）
マイク／ライン入力に接続する機器により適合レベルを選択します。

⑨ 集音用マイク入力（-60dBs　2k Ω平衡）
集音用マイク（エアーモニターマイク）を接続します。

⑩ ファンタム電源スイッチ
集音用マイクのH.C端子にファンタム電圧（DC12V）が加わります。コンデンサマイク等のファンタム電源供給用のマイクを使用する際は、**入**にします。

⑪ アース切換スイッチ
E（押さない状態）で回路アースとシャーシアースが接続され、**ー**（押した状態）で切り離されます。本機を他の機器とともにラックマウントする設置形態で、他の機器でアースがとられる場合には、**ー**にします。
本機を机上に置くなど他の機器とアースが独立する場合には **E** にします。

⑫ 外部入力（-10dBs　10k Ω平衡）
テレビ会議システム、ワイヤレスチューナーなどを接続します。

⑬、⑭ パワーアンプ出力 1,2（+4dBs　100 Ω平衡）
ターミナルユニットのスピーカー以外に、場内スピーカーを設置する場合のパワーアンプに接続します。

⑮ 外部出力 1（+4dBs　100 Ω平衡）
オーディオミキサーなどに接続します。

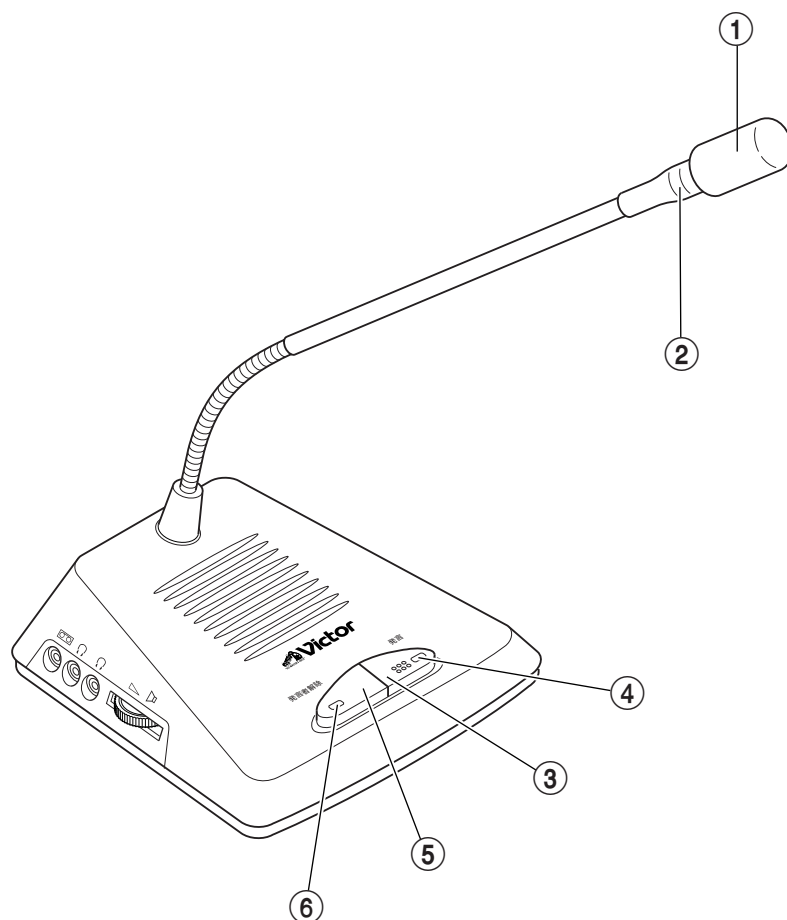
⑯ 外部出力 2（-10dBs　100 Ω平衡）
テレビ会議システム、オーディオミキサー、録音機などに接続します。

⑰ 録音出力（-10dBs　100 Ω平衡）
MD レコーダー **PM-R30** またはその他の録音機に接続します。

⑱ PC コネクター
システムアップ時に使用します。

⑲ SIGNAL GND 端子
本システムをラックに組み込む場合、他の機器のアース端子と接続します。安全アースではありません。

1.4 マスターターミナルユニット PM-T10 の各部のなまえとはたらき

■ マイク部、メインパネル部

① マイク
このマイクにむかって発言します。
マイク動作モードが"自動発言モード"の場合、音声を感知して自動的にマイクが入ります。

② マイクリング
発言できるときに緑色に点灯します。

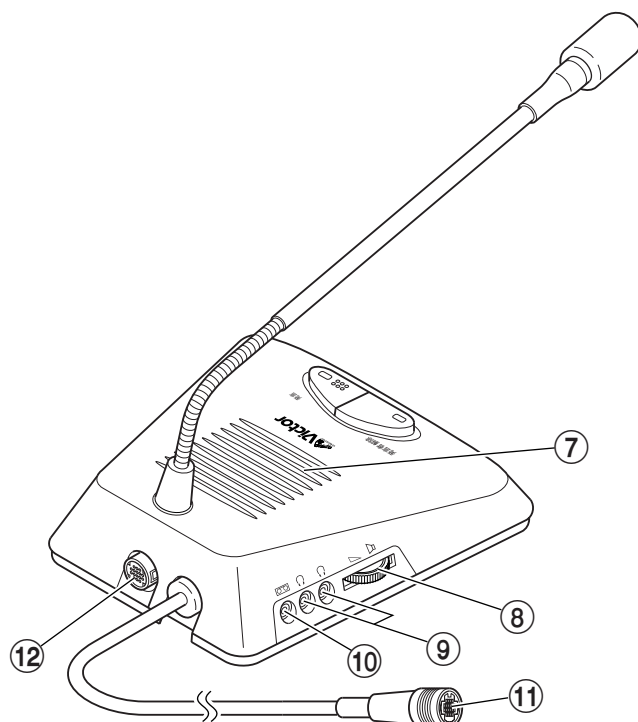
③ 発言ボタン
発言するときに押します。
発言ランプ(緑)が点灯し、マイクが入ります。
発言ランプ(緑)が点灯中に押すと、マイクが切れ発言ランプ(緑)が消灯します。
マイク動作モードが"自動発言モード"の場合は使用しません。

④ 発言ランプ
発言できるときに緑色に点灯します。

⑤ 発言者解除ボタン
議長以外の発言を取り消すときに押します。
(全てのメンバーターミナルユニット **PM-T11** のマイクを切ります。)

⑥ 発言者解除ランプ
発言者解除ボタンを押したときに約3秒間緑色に点灯します。

1.4 マスターターミナルユニット PM-T10 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ メインパネル部

⑦ モニタースピーカー
発言者の声が聞こえます。
音量はモニターボリュームで調節できます。

⑧ モニターボリューム
モニタースピーカーの音量を調節します。
ヘッドホンを使用しているときは、ヘッドホンの音量を調節します。

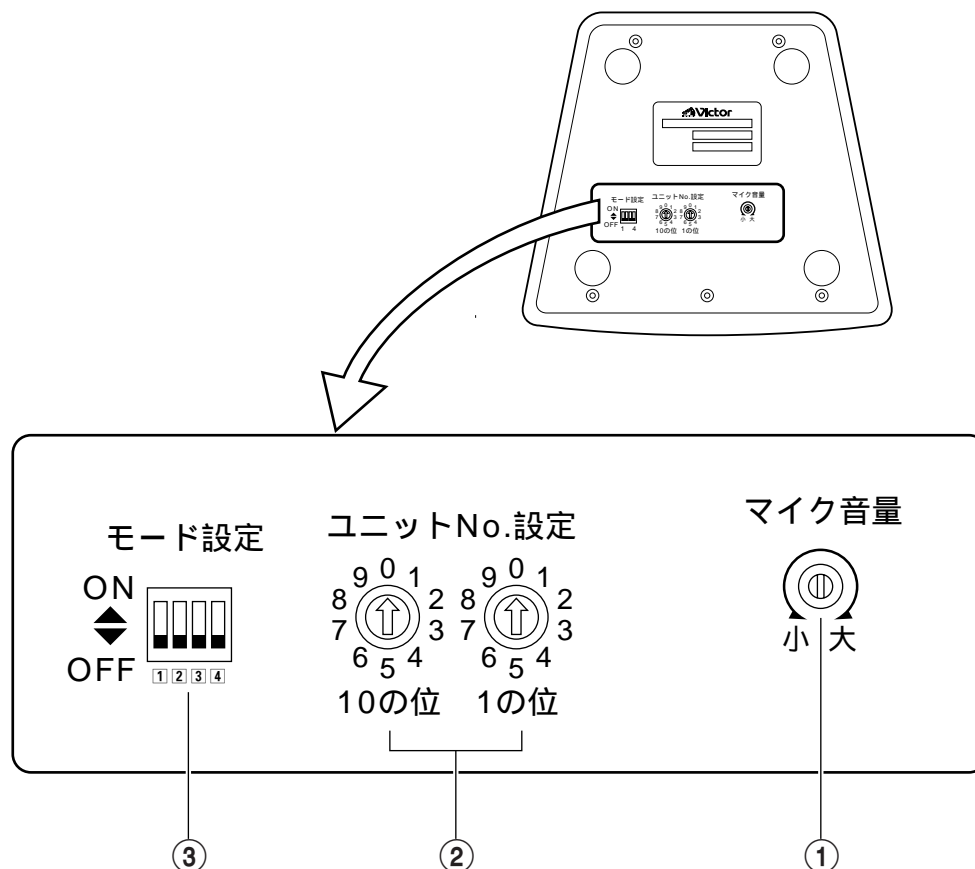
⑨ ヘッドホン出力端子（適合負荷：8 Ω以上　適合プラグ：ステレオミニプラグ［Φ 3.5］）
ヘッドホンを接続します。

⑩ 録音出力端子（出力レベル：0dBs　適合プラグ：ステレオミニプラグ［Φ 3.5］）
会議内容を録音したいときに、カセットレコーダーや MD レコーダーなどの録音機器（入力ボリューム付き）を接続します。

⑪ 会議ライン出力
デジタルコントロールユニット **PM-M110** の会議ライン入力、またはデジタルコントロールユニット **PM-M110** 側のターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ライン入力へ接続します。

⑫ 会議ライン入力
末端側のターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ライン出力を接続します。

1.4 マスターターミナルユニット PM-T10 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ ベース裏面部

① マイクボリューム
マイクの音量を調節します。
調節するときは、デジタルコントロールユニット **PM-M110** に添付の調節用ドライバーを使用してください。

② ユニット No. 設定スイッチ
本機の動作を設定するスイッチです。
誤動作の原因となりますので、操作しないでください。

③ モード設定スイッチ
本機の動作を設定するスイッチです。
誤動作の原因となりますので、操作しないでください。

1.5 メンバーターミナルユニット PM-T11 の各部のなまえとはたらき

■ マイク部、メインパネル部

① マイク

このマイクにむかって発言します。
マイク動作モードが“自動発言モード”の場合、音声を感知して自動的にマイクが入ります。

② マイクリング

発言できるときに緑色に点灯します。

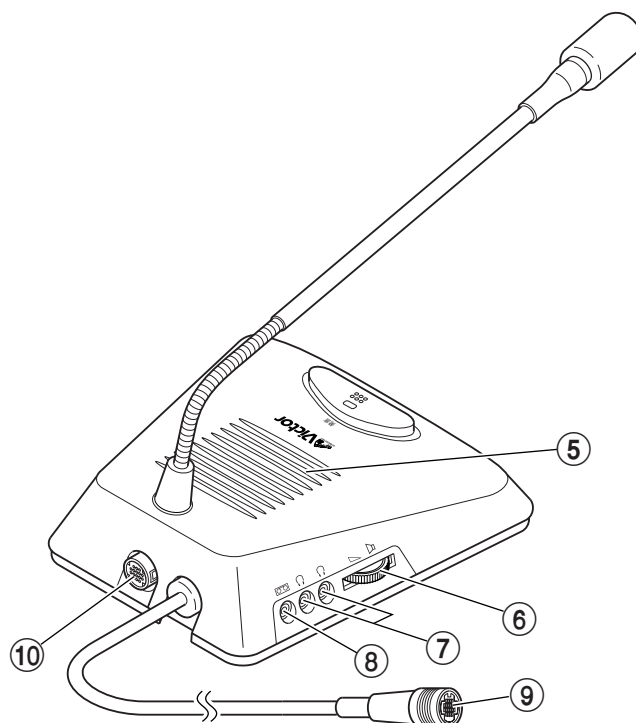
③ 発言ボタン

発言したいときに押します。
発言ランプ(緑)が点灯し、マイクが入ります。
発言ランプ(緑)が点灯中に押すと、マイクが切れ発言ランプ(緑)が消灯します。
マイク動作モードが“自動発言モード”の場合は使用しません。

④ 発言ランプ

発言できるときに緑色に点灯します。
同時発言者数の制限で発言できないときは、赤色が約 1 秒間点滅し消灯します。

1.5 メンバーターミナルユニット PM-T11 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ メインパネル部

⑤ モニタースピーカー
発言者の声が聞こえます。
音量はモニターボリュームで調節できます。

⑥ モニターボリューム
モニタースピーカーの音量を調節します。
ヘッドホンを使用しているときは、ヘッドホンの音量を調節します。

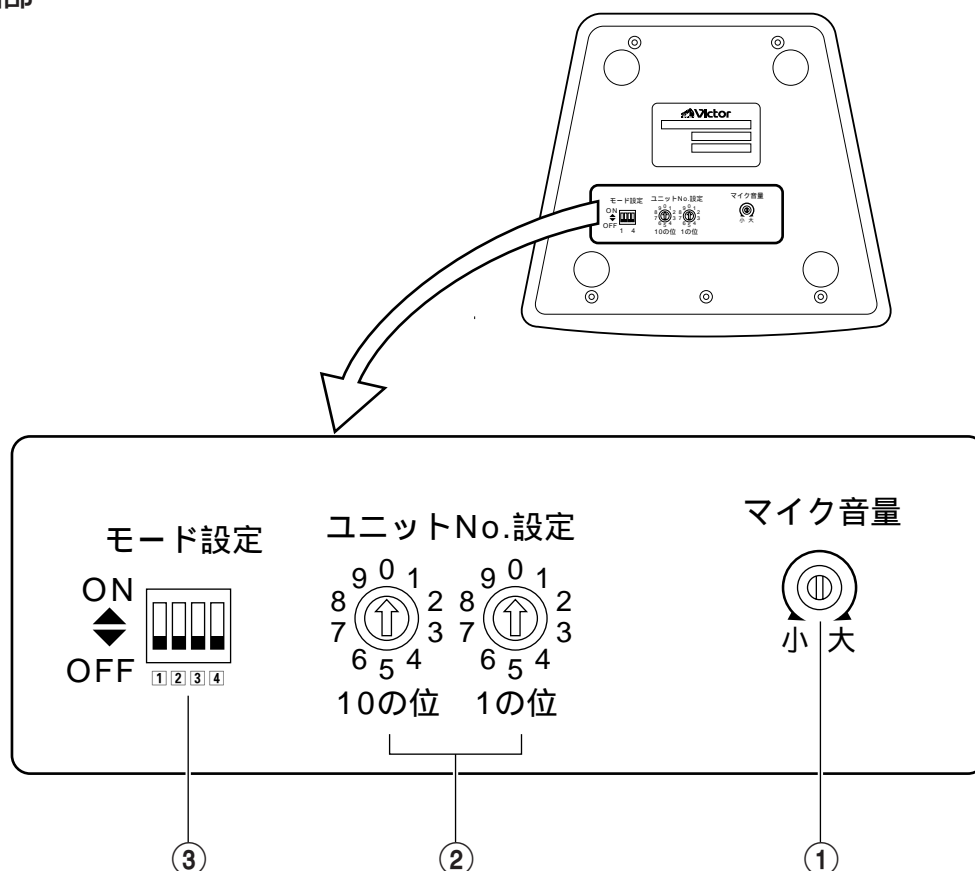
⑦ ヘッドホン出力端子（適合負荷：8 Ω以上　適合プラグ：ステレオミニプラグ［Φ 3.5］）
ヘッドホンを接続します。

⑧ 録音出力端子（出力レベル：0dBs　適合プラグ：ステレオミニプラグ［Φ 3.5］）
会議内容を録音したいときに、カセットレコーダーや MD レコーダーなどの録音機器（入力ボリューム付き）を接続します。

⑨ 会議ライン出力
デジタルコントロールユニット **PM-M110** の会議ライン入力、またはデジタルコントロールユニット **PM-M110** 側のターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ライン入力へ接続します。

⑩ 会議ライン入力
末端側のターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ライン出力を接続します。

1.5 メンバーターミナルユニット PM-T11 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ ベース裏面部

① マイクボリューム

マイクの音量を調節します。
調節するときは、デジタルコントロールユニット **PM-M110** に添付の調節用ドライバーを使用してください。

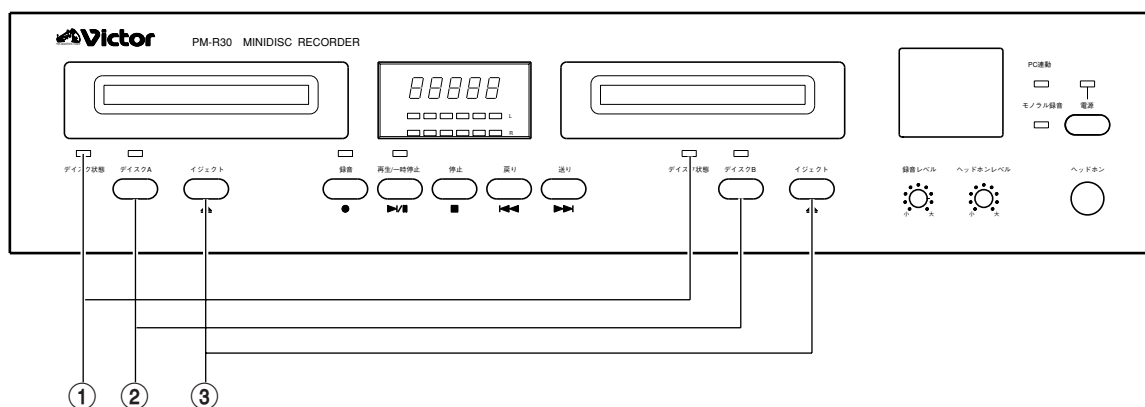
② ユニット No. 設定スイッチ

本機の動作を設定するスイッチです。
誤動作の原因となりますので、操作しないでください。

③ モード設定スイッチ

本機の動作を設定するスイッチです。
誤動作の原因となりますので、操作しないでください。

1.6 MD レコーダー PM-R30 の各部のなまえとはたらき

■フロントパネル部

① ディスク状態ランプ

ディスクがないとき・・消灯
録音可能なとき・・・・緑色に点灯
録音不可能なとき・・・赤色に点灯

> **ご注意**
> 連続録音はブランクディスクのみ使用可能です。本機は長時間録音用としての使用を考慮し、一部分でも録音されているディスクは記録できません。連続録音を行うときはブランクディスクであることを確認してください。

② ディスクドライブ A，B 選択ボタンと表示ランプ（選択時緑点灯）

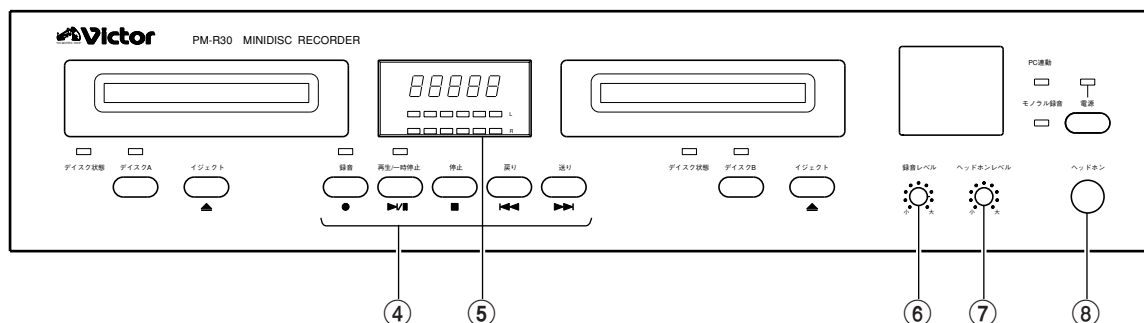
ディスク A または、B のボタンで操作するディスクドライブを選択します。

③ イジェクトボタン

ディスクをディスクドライブから取り出す時に押します。

> **ご注意**
> ディスクドライブが動作中は、ディスクの取り出しはできません。操作は停止中に行なってください。

1.6 MD レコーダー **PM-R30** の各部のなまえとはたらき（つづき）

■フロントパネル部

④ ディスクドライブ操作ボタン

(1)録音ボタン

録音を行なうときに再生／一時停止ボタンとともに押します。
録音時はボタンの上のランプが赤色に点灯します。

(2)再生／一時停止ボタン

MD の再生および録音開始と一時停止を行います。録音、再生時はボタンの上のランプが緑に点灯、一時停止時は点滅します。

(3)停止ボタン

録音や再生を停止するときに押します。

(4)戻しボタン

停止中、録音番号を選ぶときに押し、1 回押すごとに録音番号が 1 つずつ減少します。

(5)送りボタン

停止中、録音番号を選ぶときに押し、1 回押すごとに録音番号が 1 つずつ増加します。

⑤ レベルメーターL，R

録音入力レベルと再生時の音声出力レベルを表示します。
赤色のランプが 1 個点灯した状態が、最大入力レベルです。

⑥ 録音レベルボリューム

本機を単独で使用する時、録音入力レベルを調整します。⑤のレベルメーターの赤色のランプが点灯しないレベルでご使用ください。

⑦ ヘッドホンレベルボリューム

録音と再生のモニターができます。⑧のヘッドホン端子の出力レベルの調整を行います。

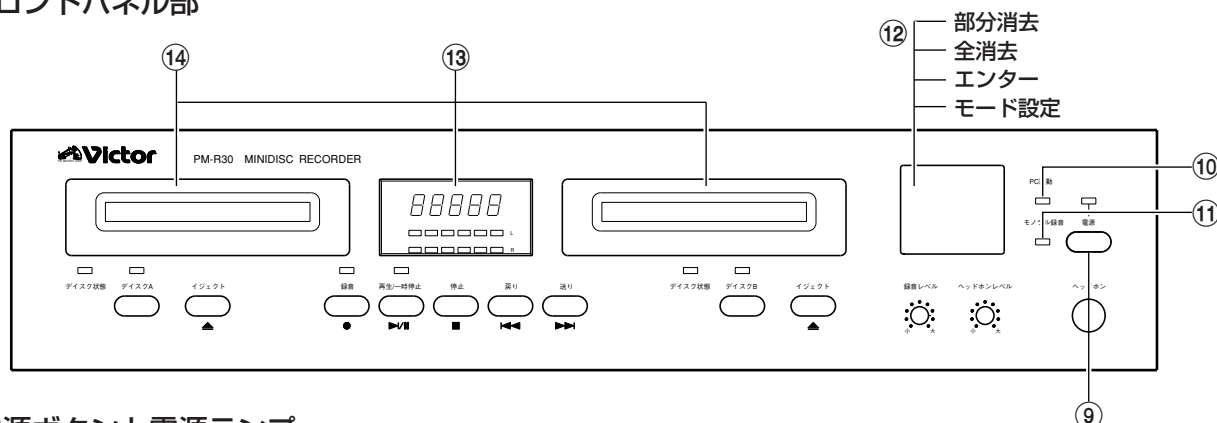
⑧ ヘッドホン端子(適合負荷：8 Ω以上 適合プラグ：ステレオ標準プラグ)

ヘッドホンを接続します。

ご注意

大音量で耳を痛めないように、接続するときや電源を入れるときは⑦のヘッドホンレベルボリュームを下げてヘッドホンをつけない状態で行なってください。

1.6 MD レコーダー **PM-R30** の各部のなまえとはたらき（つづき）

■フロントパネル部

⑨ 電源ボタンと電源ランプ

電源を入／切するときに押します。

電源入..... 緑色点灯

電源切..... 赤色点灯

> **ご注意**
>
> ・MD が動作中は電源を切ることができません。
> 　必ず停止中に行なってください。
>
> ・記録したディスクが入っている場合は、必ず取り出したあとに電源を切ってください。

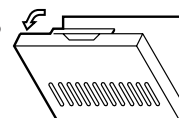
⑩PC 連動ランプ

本システムでは点灯しません。システムアップ時に使用します。

ポケットカバーのはずしかた

ペン先でロック部を押しながら軽く手前に引いてください。ロックがはずれます

⑪ モノラル録音ランプ

モノラル録音(長時間モード)中に、ランプ(緑)が点灯します。

⑫ ポケット内操作ボタンとスイッチ

(1)部分消去ボタン

指定した録音番号の録音内容を消去するときに使用します。

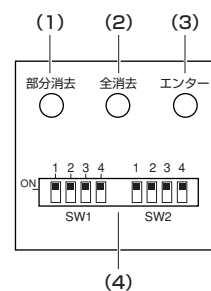
(2)全消去ボタン

ディスクに録音されている内容を全て消去しブランクディスクにします。

(3)エンターボタン

部分消去と全消去の実行ボタンです。

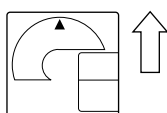
(4)モード設定スイッチ

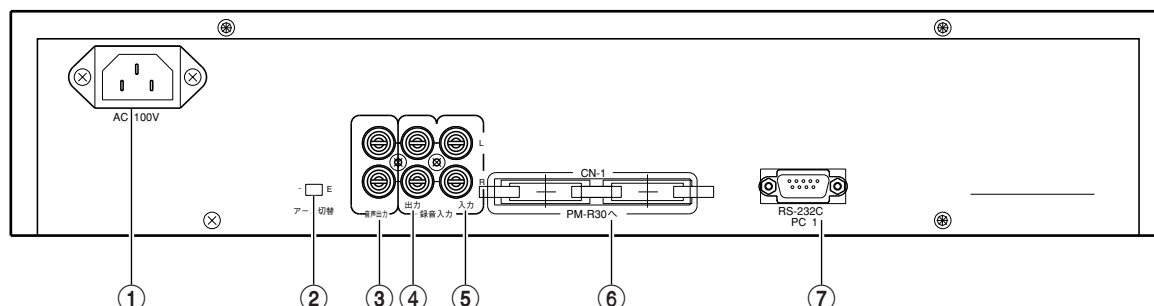
操作しないでください。誤動作の原因となります。

⑬ 録音残り時間／録音番号（インデックス No.）表示

録音時には録音残り時間、再生時には録音番号を表示します。

> **録音番号（インデックス No.）について**
>
> ・録音番号は、録音を開始するときと録音を一時停止した後に再開するときに自動的に記録されます。また、録音中に3秒以上の無音状態を検出したときも記録されます。
>
> ・録音番号の最大数は 254 です。録音番号が 254 になると、録音の一時停止や 3 秒以上の無音状態があっても、録音番号が追加されないまま（録音番号が 254 のまま）録音を継続します。
> 連続録音に設定されている場合は、録音番号が254のまま録音を継続し、録音残り時間が 1 分になると自動的に次のディスクの録音が開始します。
> 連続録音に設定されていない場合は、録音残り時間がなくなるまで録音を継続します。なお、録音番号が 254 に達しているディスクは、あらたに録音を開始することはできません。別のディスクに交換して録音を開始してください。

⑭ ディスク挿入口

図の方向にディスクを入れます。

1.6 MD レコーダー **PM-R30** の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ リアパネル

①AC コネクター

MD レコーダー **PM-R30** に添付の電源ケーブルを接続します。必ず AC100V、50 ／ 60Hz 電源を使用してください。電源が入ると電源ランプが緑色に点灯し、電源オンの状態になります。またディスクドライブにディスクが入っているときは自動的に排出されます。

② アース切換スイッチ

E 側でシャーシアース、ー側でフローティングになります。デジタルコントロールユニット **PM-M110** と組み合わせて使用する場合は、ー側(フローティング)にしてください。

③ 音声出力　L,R（-6dBs　100 Ω 不平衡）

録音時と再生時の音声を出力します。
（フルビット時 ＋4dBs）

④ 録音出力　L,R

システムアップ時に使用します。

⑤ 録音入力　L,R（-10dBs　5kΩ 不平衡）

デジタルコントロールユニット **PM-M110** の録音出力に接続します。

⑥CN-1

システムアップ時に使用します。

⑦PC コネクター

システムアップ時に使用します。

使いかた

1. デジタル会議システムの接続のしかた

1.1 デジタルコントロールユニット PM-M110 への接続

接続は必ず電源を切った状態で行なってください。
機器の故障や誤動作の原因になることがあります。

集音マイク
（-60dBs2kΩ平衡入力）

マイク（-60dBs2kΩ平衡入力）
またはミキサー、CDプレーヤーなど
（-10dBs10kΩ平衡入力）

デジタルコントロールユニット **PM-M110**

SIGNAL GND　PC　録音出力 L R　外部 出力2 出力1　パワーアンプ 出力2 出力1　外部入力　アース切替　ファンタム電源 入 切　集音用マイク　入力感度 ライン マイク　マイク/ライン2　マイク/ライン1　入力3　入力2　入力1　会議ライン　外部制御

マイク／ライン切換スイッチ
マイク／ライン入力1,2に接続する機器により適合レベルを選択します。

マイク：–60dBs入力
ライン：–10dBs入力

ファンタム電源スイッチ
集音用マイクのH.C端子にファンタム電圧（DC12V）が加わります。コンデンサマイク等のファンタム電源供給用のマイクを使用する際は、入にします。

切：ファンタム電源　切
入：ファンタム電源　入

注意

ファンタム電源スイッチの入 / 切は、必ず本機（デジタルコントロールユニット **PM-M110**）の電源を切った状態で行なってください。
スピーカーやパワーアンプ の破損の原因になることがあります。

1. デジタル会議システムの接続のしかた

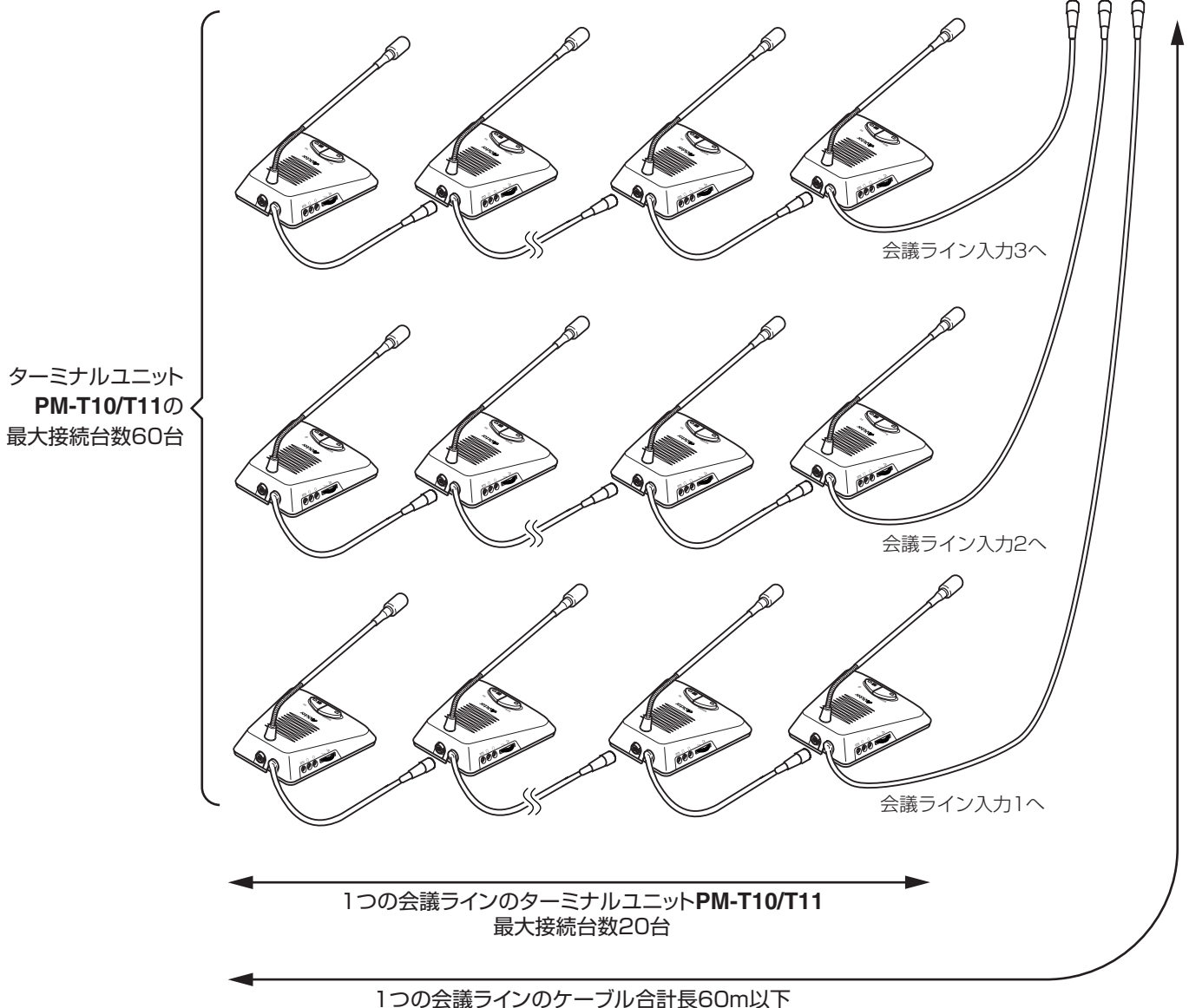
1.2 ターミナルユニット PM-T10/T11 の接続

接続は必ず電源を切った状態で行なってください。
機器の故障や誤動作の原因になることがあります。

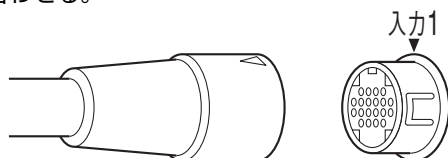
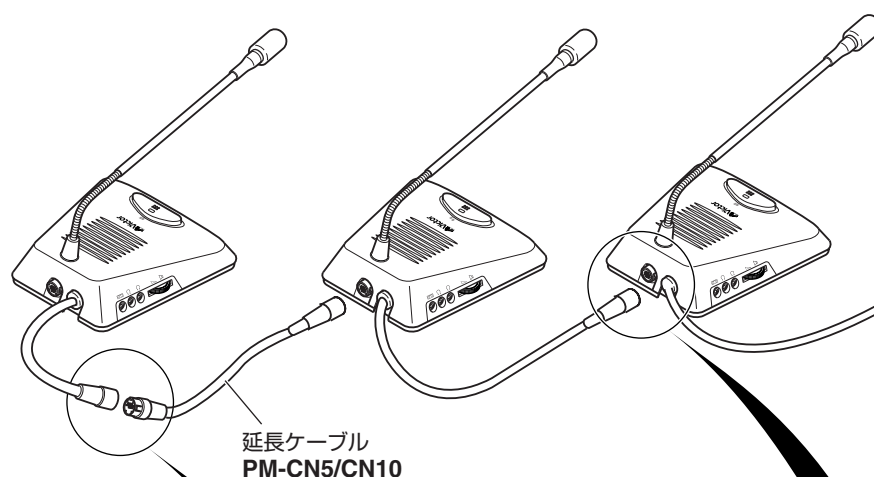
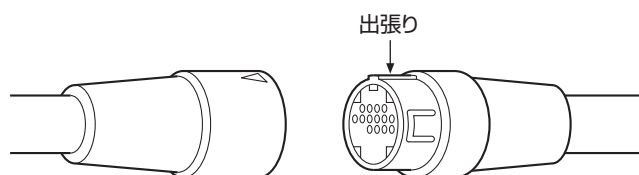
■ 接続における制限事項

ターミナルユニット **PM-T10/T11** の接続には以下のような制限があります。

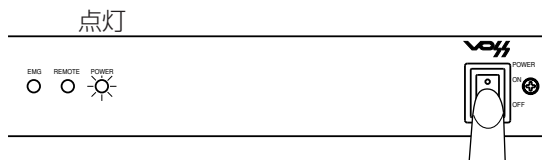
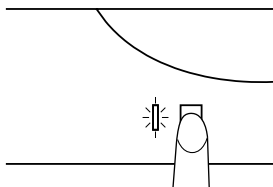
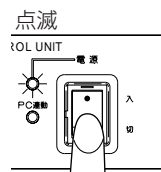
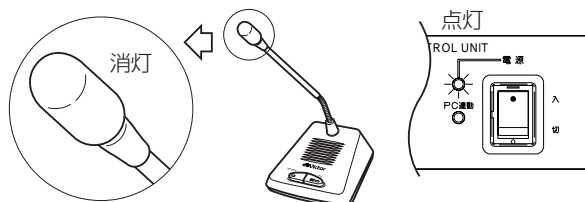
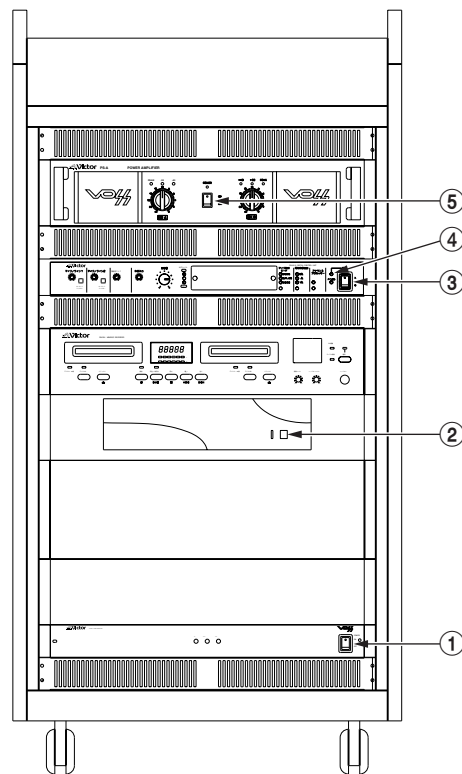
- ターミナルユニット **PM-T10/T11** の接続台数は最大 60 台です。
- 1 つの会議ラインあたりのターミナルユニット **PM-T10/T11** の接続台数は最大 20 台です。
- 1 つの会議ラインあたりのケーブルの合計は、60m 以下にします。
- ターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ラインケーブルは 2m です。

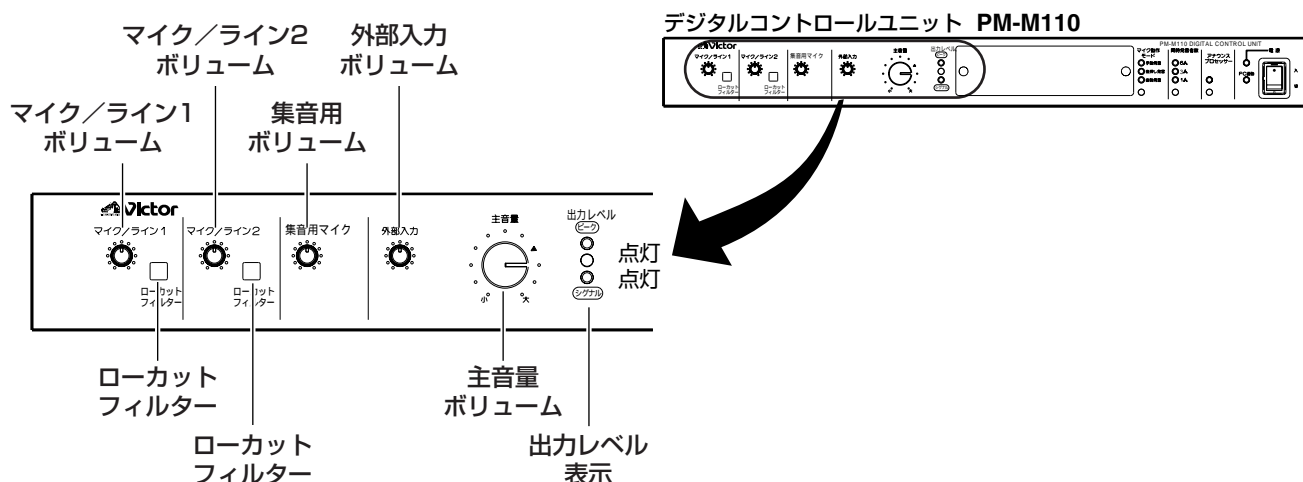
会議ライン1に20台、会議ライン2に20台、会議ライン3に20台接続されている場合

1. デジタル会議システムの接続のしかた

1.2 ターミナルユニット PM-T10/T11 の接続（つづき）

■ 接続上の注意

2. デジタル会議システムの電源の入れかた

システムの機器構成や接続方法によって、電源の入れかたが異なる場合があります。
お買い上げ販売店とご相談のうえ取り扱ってください。

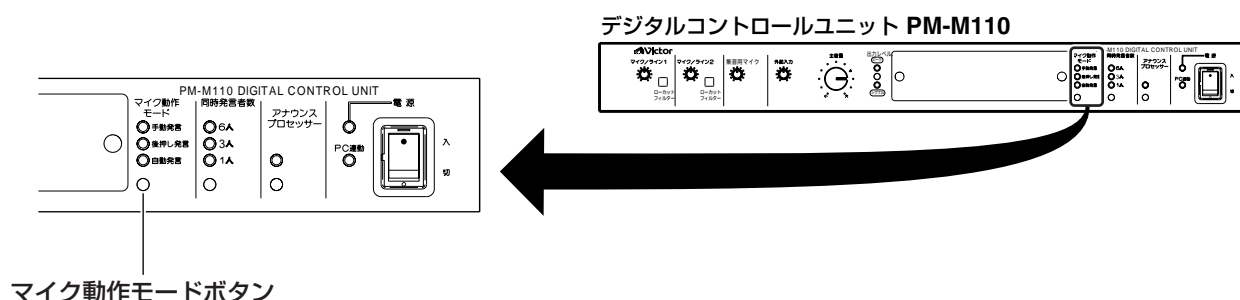
① パワーコントローラー **PS-P32-B** の電源を入れます。

② 無停電電源装置（**UPS**）の電源を入れます。

③ デジタルコントロールユニット**PM-M110**の電源スイッチを**入**にします。
デジタルコントロールユニット **PM-M110**、ターミナルユニット **PM-T10/T11** などの電源が入ります。

④ デジタルコントロールユニット**PM-M110**の電源ランプが点滅から点灯に変わり、接続されているすべてのターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクリングが点滅から消灯に変わることを確認します。

⑤ パワーアンプなどの電源を入れます。

3. デジタルコントロールユニットPM-M110の使いかた

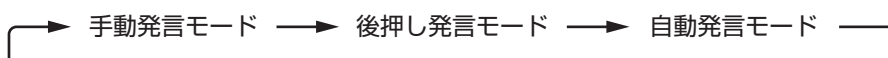
3.1 音量を調節するには

■ マイク／ライン 1,2、集音用マイク、外部入力について

使用するときは、十分な音量でハウリングがないように、そのボリュームを調節します。主音量ボリュームを基準位置（▼マーク）に合わせたとき、出力レベルの緑ランプ 2 個が平均的に点灯するレベルが適正レベルです。
マイク／ライン 1,2 入力をマイクに使う場合は、ローカットフィルタースイッチを入れてください。

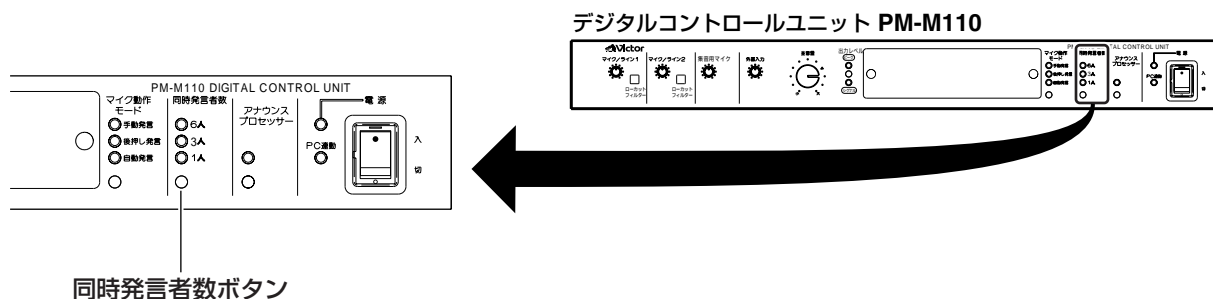
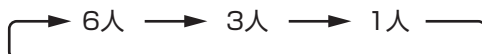
■ 主音量について

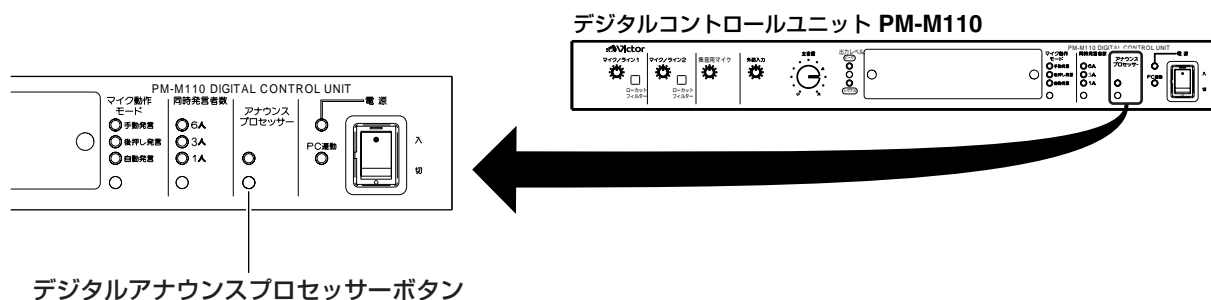
主音量ボリュームは、会議ラインモニター（ターミナルユニット**PM-T10/T11**のモニター音声）、パワーアンプ出力、外部出力を同時に可変します。録音出力には効きません。
通常は基準位置（▼マーク）で使用してください。

3.2 マイク動作モードを変更するには

マイク動作モードボタンを押すごとにランプの点灯が移動し、点灯中のマイク動作モードになります。

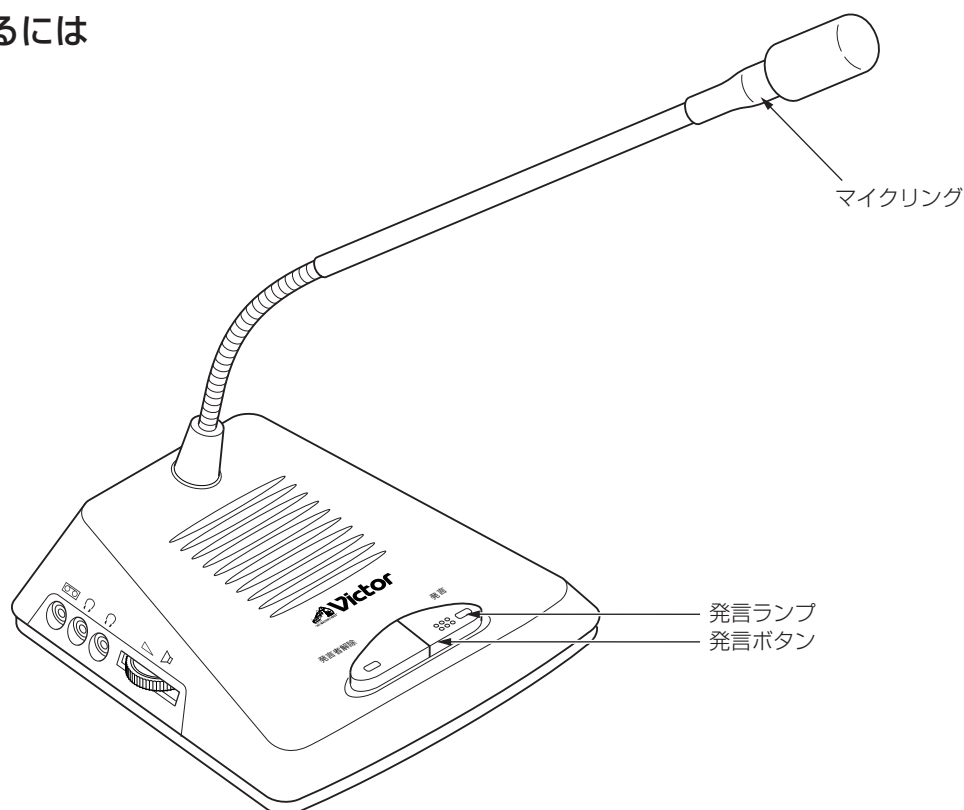
→ 手動発言モード → 後押し発言モード → 自動発言モード →

3. デジタルコントロールユニット PM-M110 の使いかた

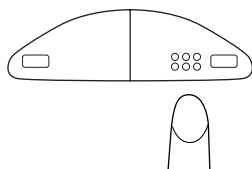
3.3 同時発言者数を変更するには

同時にマイクを入れることができるメンバーターミナルユニット **PM-T11** の台数を設定します。
必要最小限の数に設定したほうが、発言が聞きとりやすくなります。

同時発言者数のボタンを押すごとにランプの点灯が移動し、点灯中の人数に設定されます。

3.4 聞き取りやすい音にするには

デジタルアナウンスプロセッサーとはデジタル処理により、小さい音は大きく、大きい音は小さくして発言者の音量の差を低減させ、聞きやすくする機能です。

デジタルアナウンスプロセッサーボタンを押すごとにランプが点灯／消灯し、点灯中に動作します。

4. マスターターミナルユニット PM-T10 の使いかた

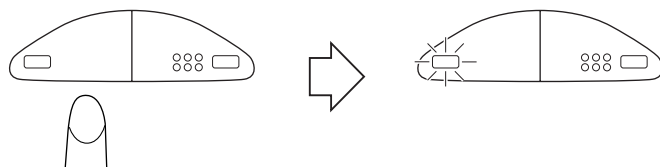
4.1 発言するには

■ 発言ボタンを押して発言する場合

自動発言モードの場合は、音声を感知してマイクが入ります。

① 発言ボタンを押します。

② 発言ランプが赤色から緑色に変わり、マイクリングが点灯することを確認します。

③ マイクに向かって発言します。
発言ランプが緑色に点灯しマイクリングが点灯しているときに、発言ボタンを押すとマイクが切れます。

4.2 現在の発言を終了させるには

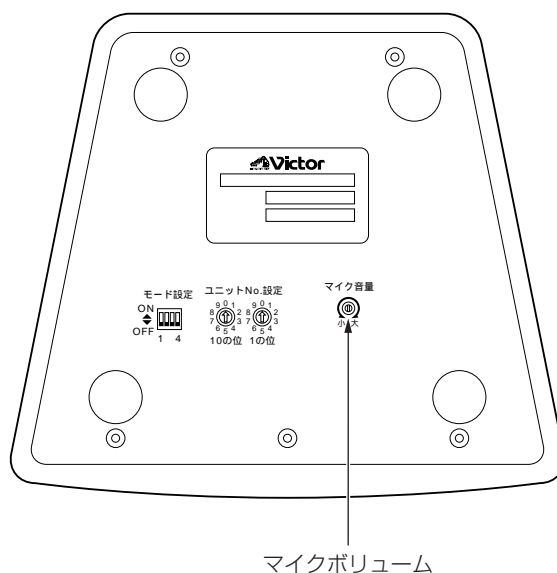
① 発言者解除ボタンを押します。
発言者解除ランプが３秒間、緑色に点灯し、他のターミナルユニット **PM-T10/T11** のモニタースピーカーから“ポーン”と音がします。

② 議長以外の発言が終了します。
（全てのメンバーターミナルユニット **PM-T11** のマイクが切れます。）

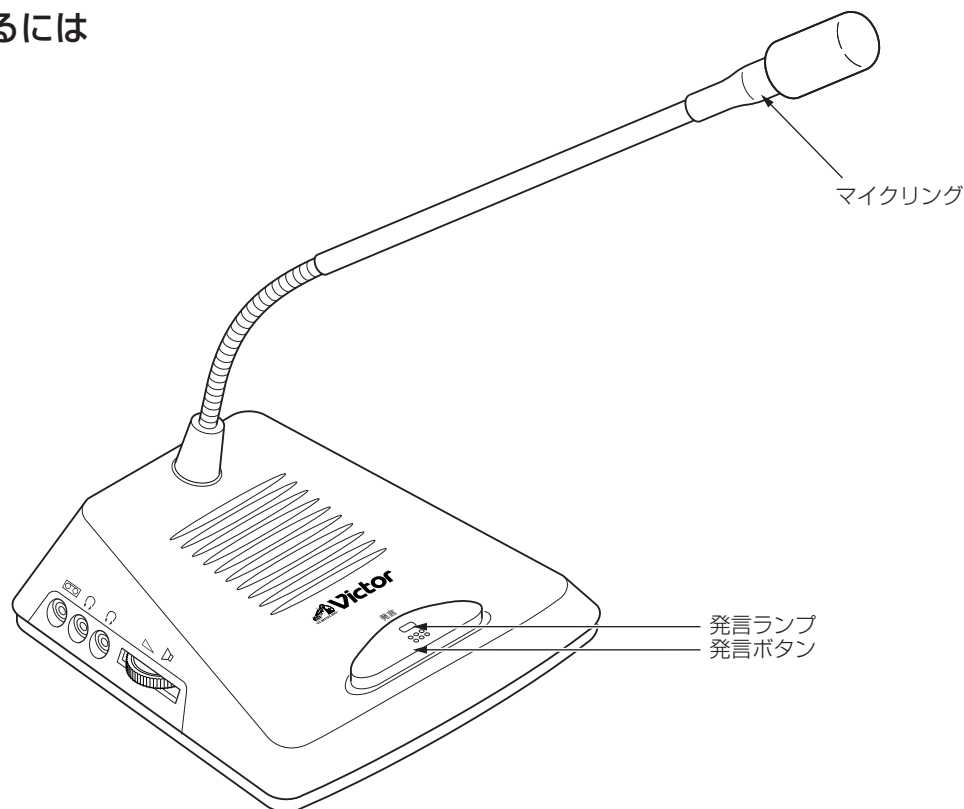
> 発言者解除ボタンを押すと、直ちに議長以外の全てのマイクが切れます。
> 取り扱いに十分ご注意ください。

4.3 マイクの音量を調節するには

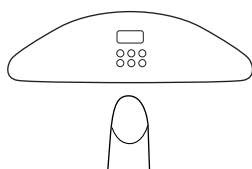
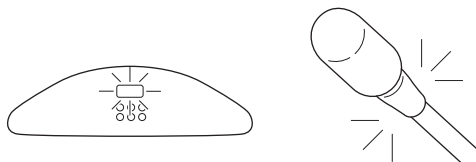
マスターターミナルユニット **PM-T10** のベース裏面部のマイクボリュームで調節します。
調節するときは、デジタルコントロールユニット **PM-M110** に添付の調節用ドライバーを使用します。

マスターターミナルユニット **PM-T10** ベース裏面部

マイクボリューム

5. メンバーターミナルユニット PM-T11 の使いかた

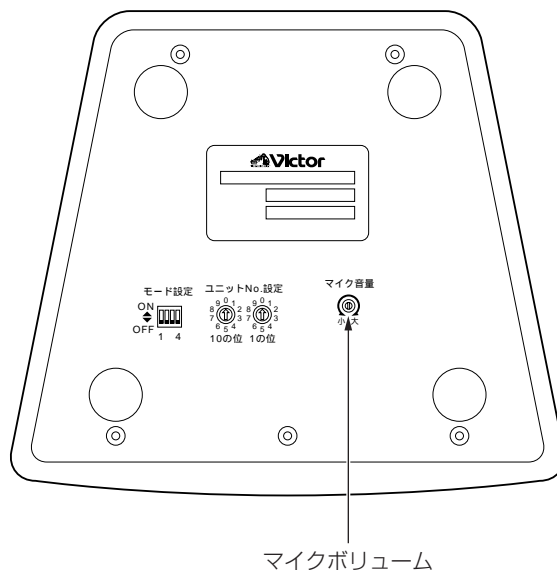
5.1 発言するには

■ 発言ボタンを押して発言する場合

マイク動作モードが“自動発言モード”の場合は、音声を感知してマイクが入ります。

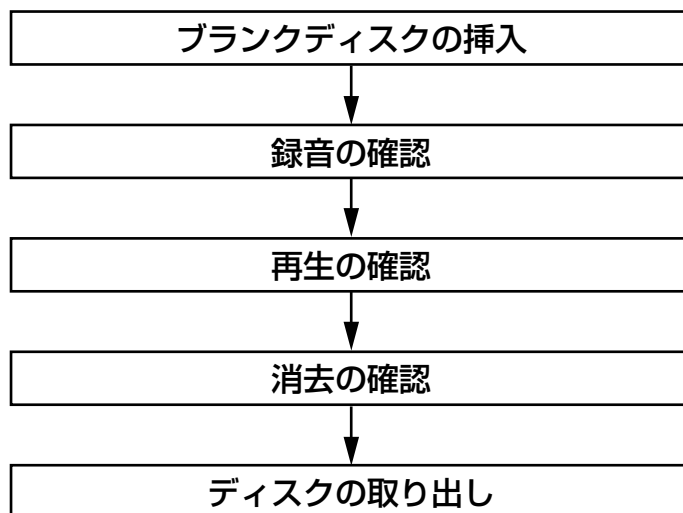
① 発言ボタンを押します。

② 発言ランプが赤色から緑色に変わり、マイクリングが点灯することを確認します。
発言ランプが約 1 秒間、赤色に点滅して消灯する場合は発言者制限のため、発言が行えません。

③ マイクに向かって発言します。
発言ランプが緑色に点灯しマイクリングが点灯しているときに、発言ボタンを押すとマイクが切れます。

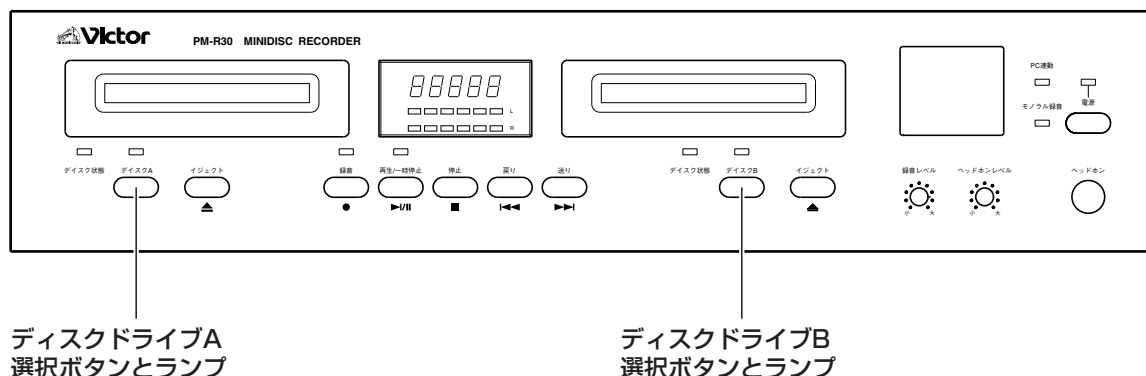
5.2 マイクの音量を調節するには

メンバーターミナルユニット **PM-T11** のベース裏面部のマイクボリュームで調節します。
調節するときは、デジタルコントロールユニット **PM-M110** に添付の調節用ドライバーを使用します。

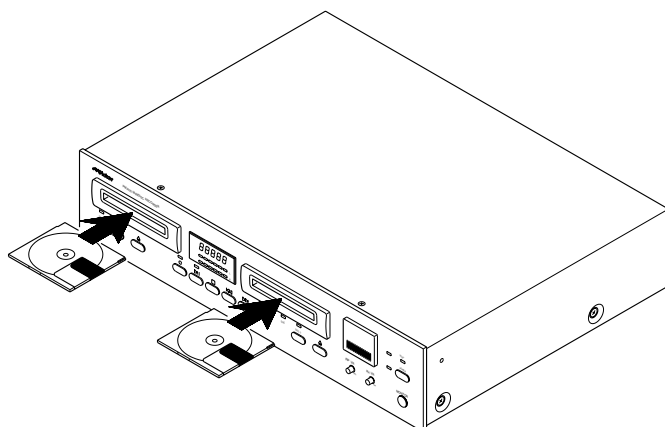
メンバーターミナルユニット **PM-T11** ベース裏面部

6. MD レコーダー PM-R30 の使いかた

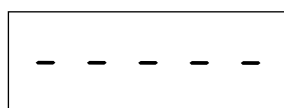
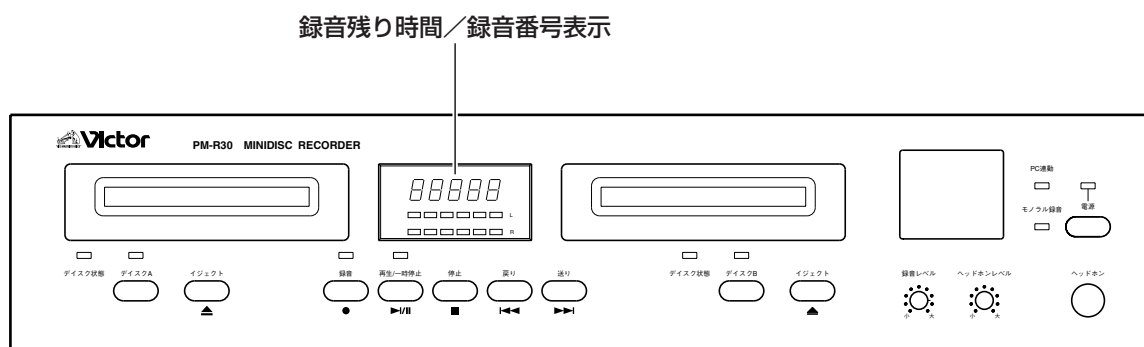
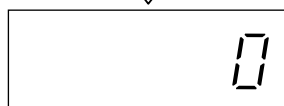
6.1 動作の確認

会議を開始する前に、MD レコーダー **PM-R30** が正常に動作することを確認してください。手順は次の通りで、必ずディスクドライブ A とディスクドライブ B の両方を確認してください。

ディスクドライブ A またはディスクドライブ B の選択のしかた

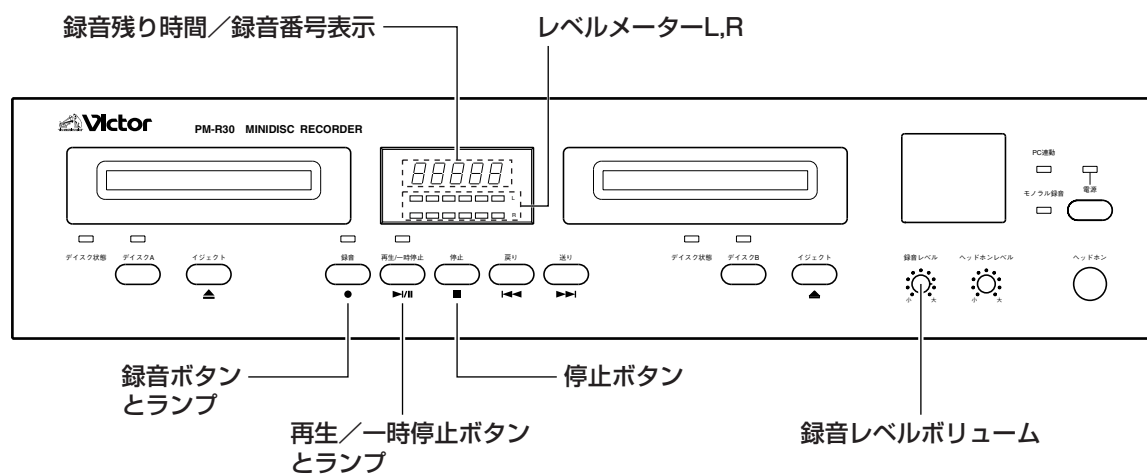
ディスクドライブ A を選択する時は、ディスクドライブ A 選択ボタンを押してディスクドライブ A ランプを点灯させます。
ディスクドライブ B を選択する時は、ディスクドライブ B 選択ボタンを押してディスクドライブ B ランプを点灯させます。

6.1 動作の確認（つづき）

■ ブランクディスクの挿入

① MD レコーダー **PM-R30** のディスクドライブ A または B に、ブランクディスクを入れます。

ディスクの矢印のある面を上にしてその矢印の方向に差し込みます。
ディスクは自動的に中に引き込まれます。

② 録音残り時間／録音番号表示が以下の図のように変わることを確認します。

点滅（点滅中に TOC を読んでいます。数秒かかります。）

点滅が終了するとブランクディスクでは録音番号 0 が表示されます。

6. MD レコーダー PM-R30 の使いかた

6.1 動作の確認（つづき）

■ 録音の確認

① 録音ボタンを押します。
録音ランプ（赤）が点灯し、再生／一時停止ランプ（緑）が点滅します。

② 1 つのターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクを入れます。

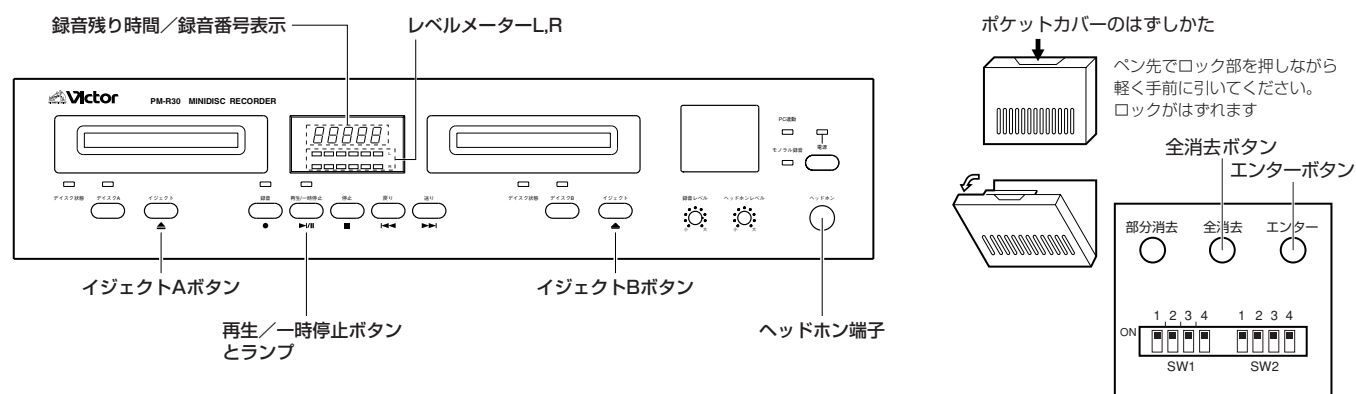
③ マイクに向かって話します。

④ 録音レベルを設定します。
赤色のランプ 1 個のレベルが最大入力レベル（フルビット）です。
赤色が点灯しないレベルに録音レベルボリュームを調節します。

⑤ 再生／一時停止ボタンを押し録音を開始します。

⑥ 数秒後に停止ボタンを押し、録音を停止させます。

⑦ 録音残り時間／録音番号表示が、［点滅 - - - - -］になり、その後に［1］になることを確認します。

6.1 動作の確認（つづき）

■ 再生の確認

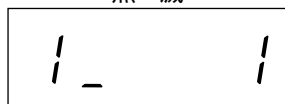
① 再生するディスクドライブを選択します。
ディスク選択ボタンで再生するディスクドライブを指定します。

② 再生／一時停止ボタンを押す。
再生／一時停止のランプ（緑）が点灯し再生を始めます。レベルメーターの緑色のランプが点灯することを確認します。録音内容を確認する時は、ヘッドホン端子にヘッドホンを接続するか、ディスクを取り出して別のMDプレーヤーを使用します。

■ 消去の確認

確認した録音内容を消去しブランクディスクとして使用できるようにします。

① 全消去ボタンを押す。

録音残り時間／録音番号表示が、

になります。

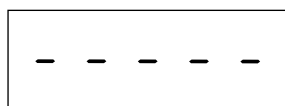
② エンターボタンを押す。

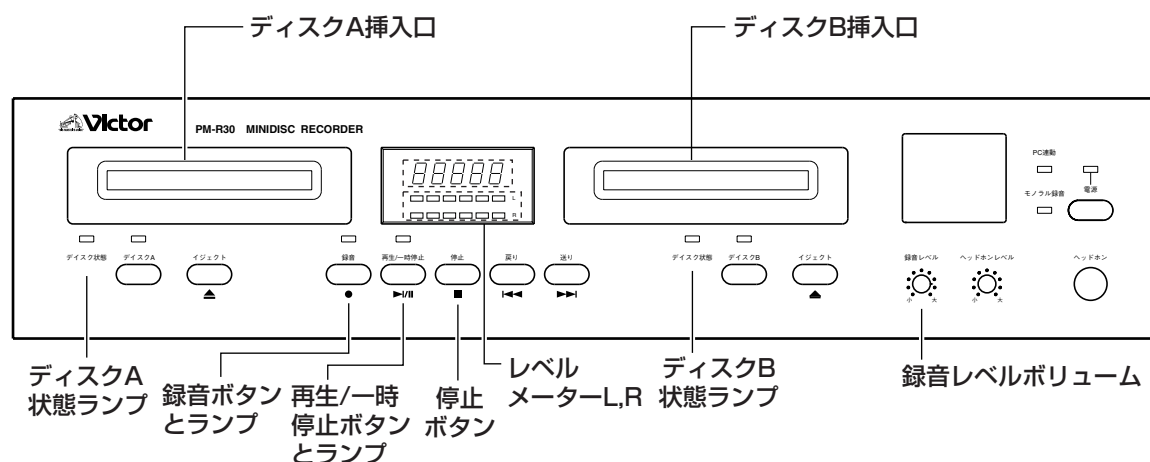
録音残り時間／録音番号表示が、

になり、録音内容を消去します。

■ ディスクの取り出し

① イジェクトボタンを押す。

ディスクが出てくる前に TOC の修正を行います。

の表示が点滅します。

6.2 録音のしかた

① ディスクを入れます。
ディスクを入れてディスク状態ランプが赤色に点灯したときはブランクディスクではありませんので、録音できません。緑色に点灯することを確認してください。

ご注意

連続録音の設定の場合は、必ずブランクディスクを用意してください。
録音に残り時間があってもブランクディスクでないとディスク状態ランプが赤色に点灯し、録音は開始されません。

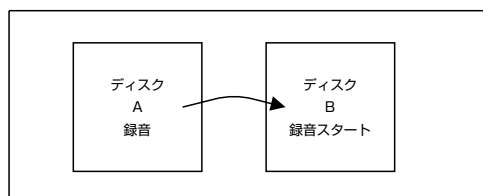
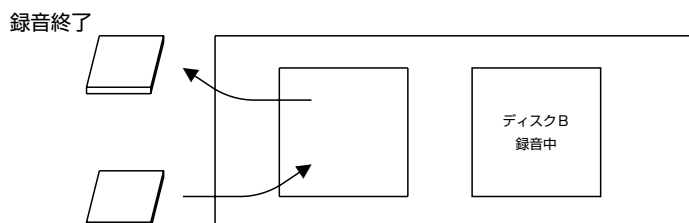
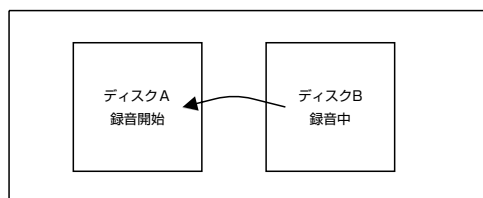
② 録音ボタンを押します。
録音ランプ（赤）が点灯し再生／一時停止ランプ（緑）が点滅します。

③ 再生／一時停止ボタンを押し、録音を開始します。

④ 停止ボタンを押すと、TOC が書き込まれます。TOC が正しく書き込めた時点で録音が完了します。

6.2 録音のしかた（つづき）

■ 連続録音に設定している場合

録音ボタンを押すとディスクドライブ A 側から録音を始めますがディスクがなければディスクドライブ B 側から録音をはじめます。
ディスク A（または B）の録音終了 1 分前になると自動的にディスク B（または A）に録音が移ります。
このディスク切り替わりのときに次に録音するディスクがないと、新しくブランクディスクを交換するか、停止ボタンを押すまで待機状態になります。

ディスクAが録音終了1分前にディスクB録音を開始します。

ディスクAが録音終了したらディスクAをブランクディスクに交換してください。

上記動作を停止ボタンを押すまで繰り返します。

連続録音の設定を変更したい場合は、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口へご相談ください。

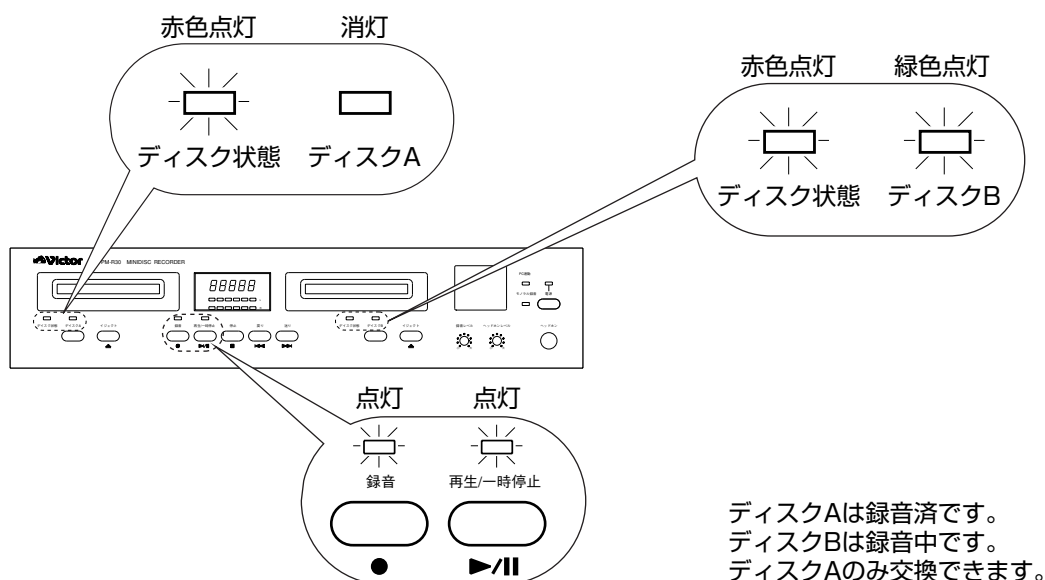
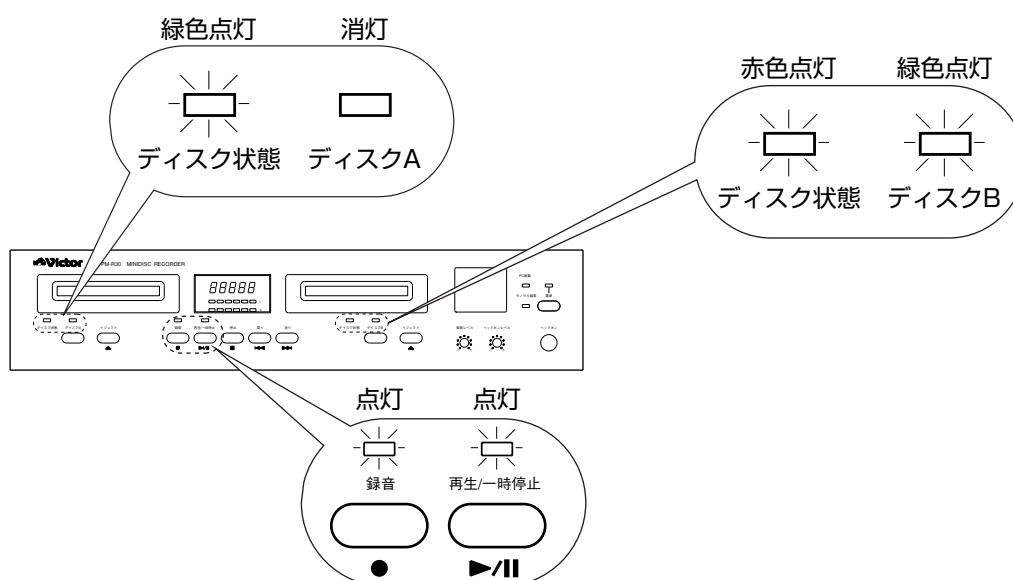
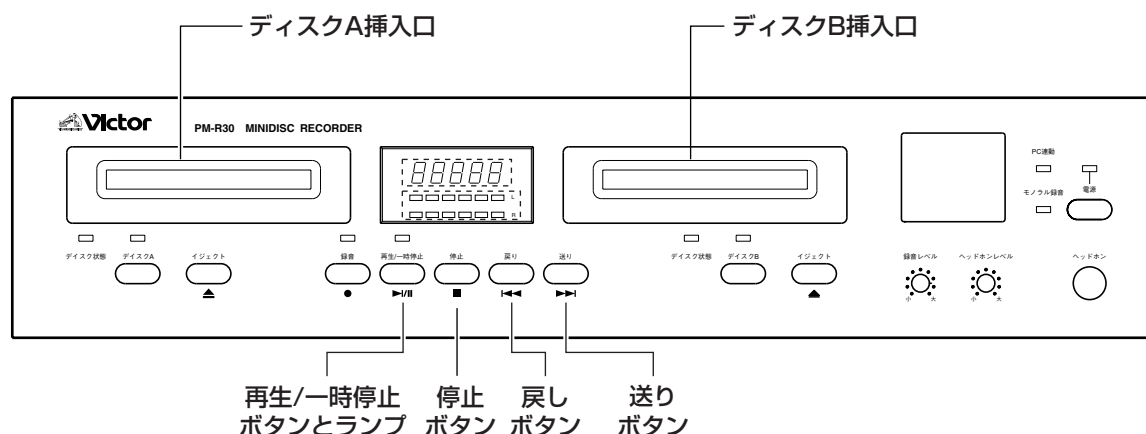
■ 録音番号（インデックス No.）について

・ 録音番号は、録音を開始するときと録音を一時停止した後に再開するときに自動的に記録されます。また、録音中に３秒以上の無音状態を検出したときも記録されます。
・ 録音番号の最大数は 254 です。
　録音番号が254になると、録音の一時停止や３秒以上の無音状態があっても、録音番号が追加されないまま（録音番号が254 のまま）録音を継続します。
　連続録音に設定されている場合は、録音番号が254のまま録音を継続し、録音残り時間が１分になると自動的に次のディスクの録音が開始します。
　連続録音に設定されていない場合は、録音残り時間がなくなるまで録音を継続します。
　なお、録音番号が254 に達しているディスクは、あらたに録音を開始することはできません。別のディスクに交換して録音を開始してください。

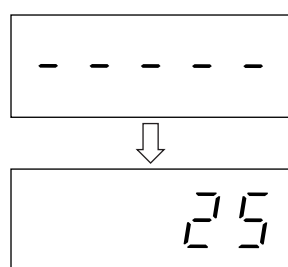
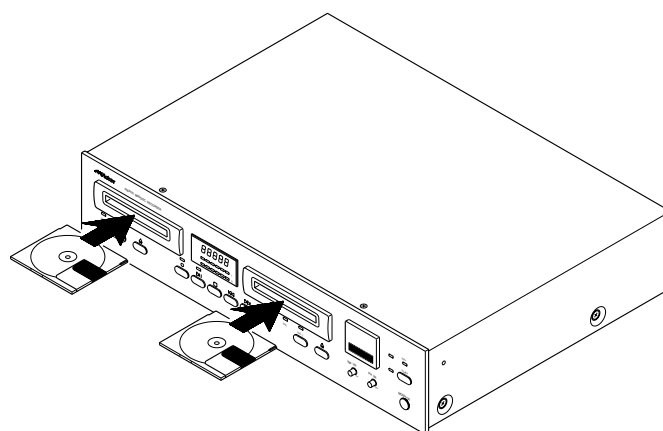
6.3 録音済みディスクの交換

録音が行われたディスクが挿入されているディスクドライブのディスク状態ランプは、赤色に点灯します。

① **ディスク状態ランプが赤色に点灯しているディスクドライブのイジェクトボタンを押し、ディスクを取り出します。**

ディスクAは録音済です。
ディスクBは録音中です。
ディスクAのみ交換できます。

② **ブランクディスクを挿入し、ディスク状態ランプが緑色に点灯することを確認してください。**

6.4 再生／消去のしかた

■ 再生のしかた

① ディスクを入れる

ディスクドライブA側またはB側に、ディスクに書いてある矢印のある面を上にして矢印の方向に差し込みます。
ディスクは自動的に中に引き込まれます。

② 再生／一時停止ボタンを押す

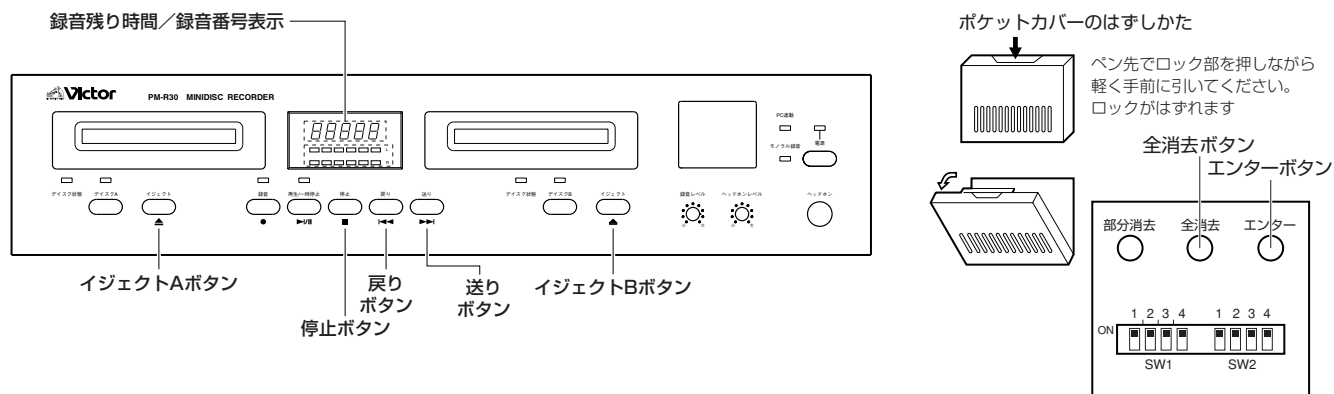
再生／一時停止のランプ（緑）が点灯し、再生をはじめます。途中で再生を停止するときは停止ボタンを押します。
再生を一時停止するときは再生／一時停止ボタンを押します。
再生／一時停止のランプ（緑）が点滅します。もう一度押すと停止したところから再生が始まります。

録音番号の頭出し

次の録音番号の頭出しは送りボタンを1回押します。1回押すたびに録音番号が1つ増えます。
聞いている録音番号の頭出しは戻しボタンを1回押します。

早送り・早戻し

MD再生中に操作します。
早送りは送りボタンを押し続けます。早戻しは戻しボタンを押し続けます。

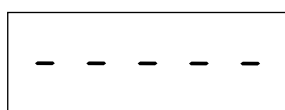
6.4 再生／消去のしかた（つづき）

■ 消去のしかた

部分消去

指定した録音番号を消去するときに使用します。

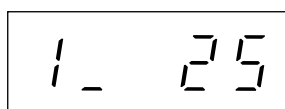
① 停止中に送りまたは戻しボタンで消去したい録音番号を選んで部分消去ボタンを押します。中止するときは停止ボタンを押してください。

② 録音番号が点滅している状態でエンターボタンを押します。

③ 終わったらイジェクトボタンを押してディスクを取り出してください。ディスクが出てくる前に TOC の修正を行います。ディスクに記録中は

の表示が点滅します。

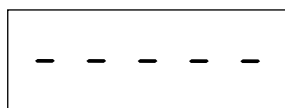
全消去

ディスクに録音されている内容を全て消去し、ブランクディスクにします。

① 停止時に全消去ボタンを押すと

が点滅して表示されます。

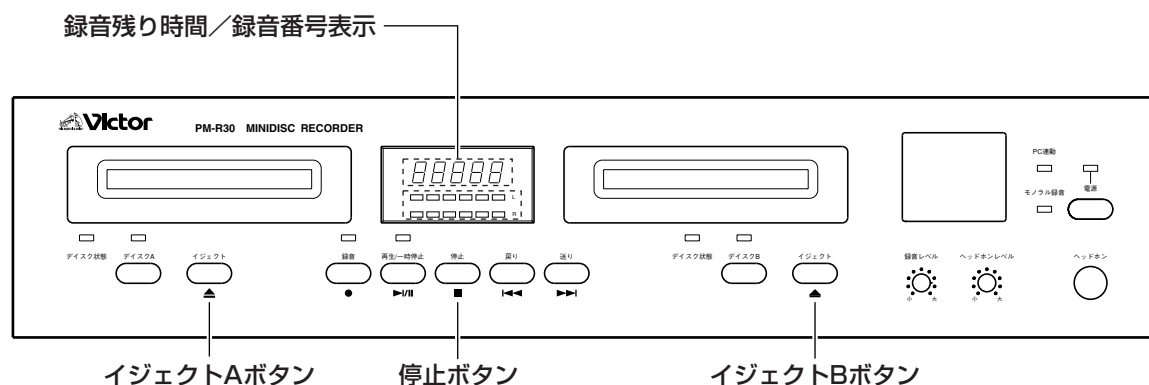
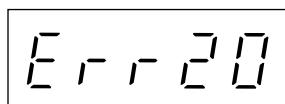
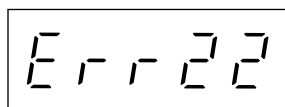
録音番号 1 から最大録音番号を表示します。中止するときは停止ボタンを押してください。

② エンターボタンで実行します。

③ 終わったらイジェクトボタンを押してディスクを取り出してください。ディスクが出てくる前に TOC の修正を行います。ディスクに記録中は

の表示が点滅します。

ご注意

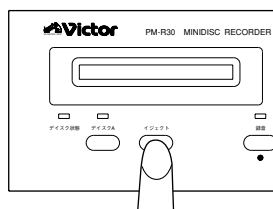
- 再生専用ディスクや消去防止状態になっているディスクは消去できません。
- 一度消去した録音は戻すことが出来ません。大切な録音の入ったディスクは消去防止つまみを録音禁止側にずらしておいてください。
- 部品消去、全消去とも各操作の後にイジェクト操作を行うことで消去作業が完了します。
- 部分消去ボタン、全消去ボタンを押して10秒以内にエンターボタンを操作しないと録音番号が点滅から点灯になり消去作業がキャンセルされます。消去作業がキャンセルされた場合、もう一度最初から消去作業を行なってください。

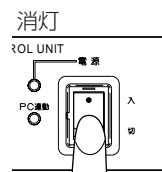
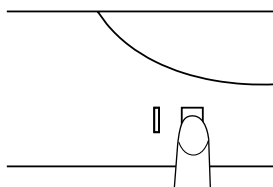
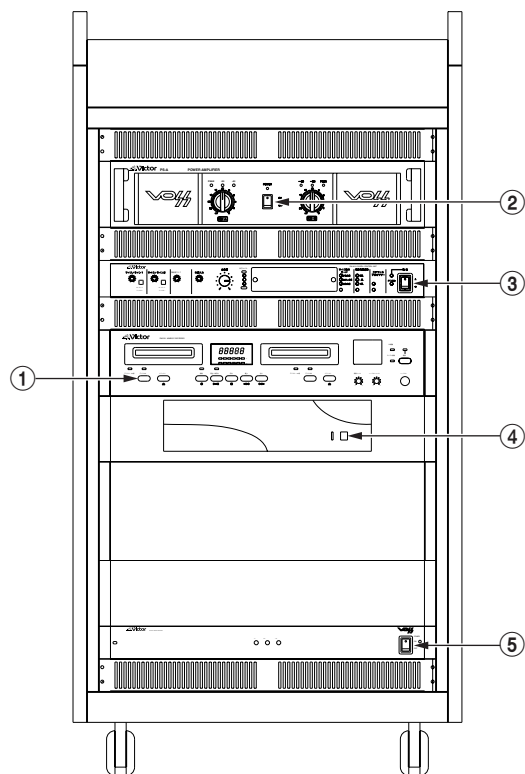
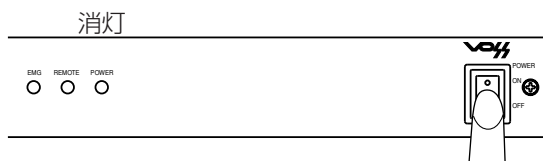
6.5 エラーメッセージとその対処法

■ 録音残り時間／録音番号表示

Err20... ディスクエラー
ディスクを交換してください。

Err22... 録音中に異常が発生
停止ボタンを押して停止してからイジェクトボタンを押してディスクを取り出し、もう一度操作しなおしてください。

再操作後、または電源を入れなおしてもErr（エラー）を表示する場合はお買い上げ販売店またはビクターサービス窓口へご連絡ください。

7. デジタル会議システムの電源の切りかた

システムの機器構成や接続方法によって、電源の切り方が異なる場合があります。
お買い上げ販売店とご相談のうえ操作してください。

① MD レコーダー **PM-R30** のイジェクトボタンを押し、ディスクを取り出します。

② パワーアンプや周辺機器の電源を切ります。

③ デジタルコントロールユニット **PM-M110** の電源を切ります。

④ 無停電電源装置（**UPS**）の電源を切ります。

⑤ パワーコントローラー **PS-P32-B** の電源を切ります。

8. 非常放送時には

非常放送の信号を受け取ると、非常放送を優先させるために録音出力以外の音声出力を全て遮断します。

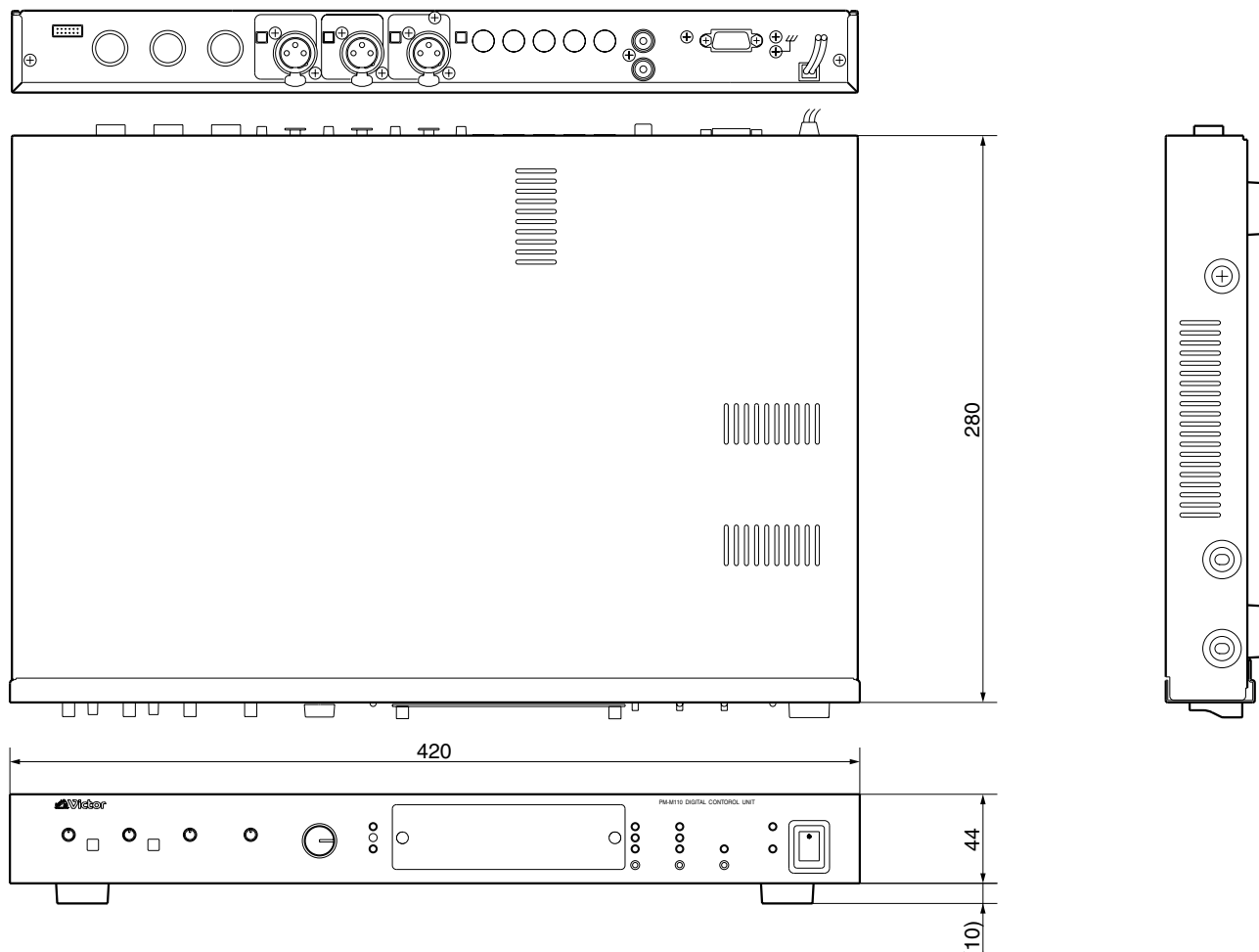
主な仕様

本機の仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります

1. デジタルコントロールユニット PM-M110

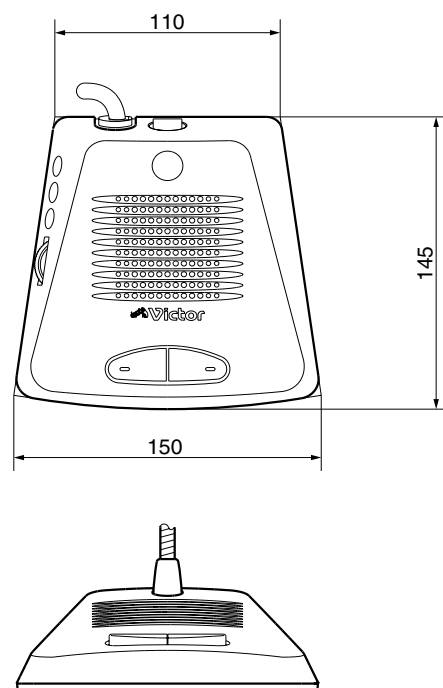
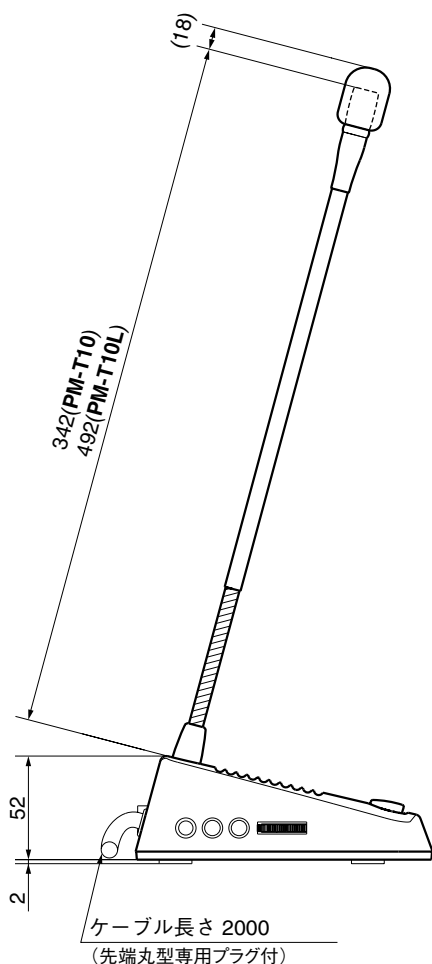
■定　格

会議ライン入力	丸型専用コネクター×3（3ライン接続対応）
DC 電源出力	+24V,0V
マイク音声入力	H,C +4dBs/10kΩ（電子平衡）
モニター音声出力	H,C +4dBs/100Ω（電子平衡）
シリアル通信入出力	RS-485 準拠
操作パソコンコネクター	D-sub 9ピンコネクター RS-232C準拠
マイク／ライン入力	キャノンXLR-3-31タイプコネクター×2 -60dBs/2kΩ[マイク]、-10dBs/10kΩ[ライン] （電子平衡、LCF付き）
集音マイク入力	キャノンXLR-3-31タイプコネクター -60dBs/2kΩ（電子平衡） ファンタム電源（12V）出力可
外部入力	φ6.3 ジャック -10dBs/10kΩ（電子平衡）
録音出力	RCAピンジャック（L,R）×2 -10dBs/100Ω（不平衡）
パワーアンプ出力	φ6.3 ジャック×2 +4dBs/100Ω（電子平衡）
外部出力 1	φ6.3 ジャック +4dBs/100Ω（電子平衡）
外部出力 2	φ6.3 ジャック -10dBs/100Ω（電子平衡）
外部制御端子	角型 12ピンコネクター DC24V/100mA、E、 外部制御出力×4 （オープンコレクター、100mA以下）、 発言者連動出力×4 （オープンコレクター、100mA以下） RB+、RB－
デジタル信号処理部	デジタルアナウンスプロセッサ内蔵 （エキスパンダ、コンプレッサ、リミッタ機能付） デジタルハウリングサプレッサ内蔵 自動マイク･スピーカー点検機能内蔵
周波数特性 （1kHz基準）	100Hz～15000Hz +1dB/-3dB
電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	120W
外形寸法	幅420mm×高さ44mm×奥行280mm（突起物含まず）
仕上げ	黒色塗装仕上
質量	3.6kg
付属品	ラックマウント金具×2 （EIA19インチラック取り付け可能） M4ねじ×4、M5ねじ×4 取扱説明書×1 設置説明書×1 外部制御ケーブル×1 調節用ドライバー×3

■ 外観寸法図　単位：mm

2. マスターターミナルユニット PM-T10/T10L

■ 定 格

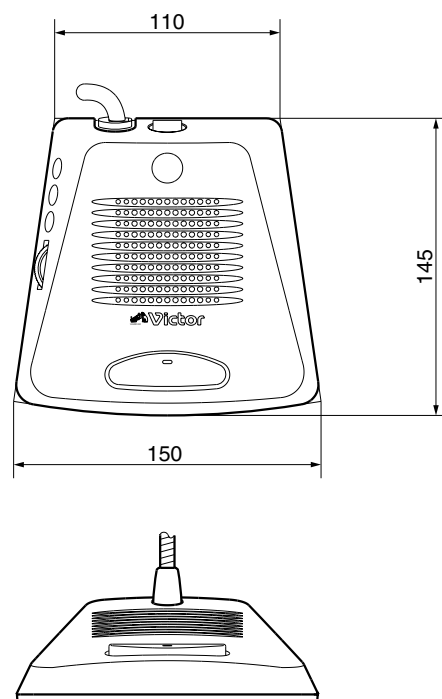
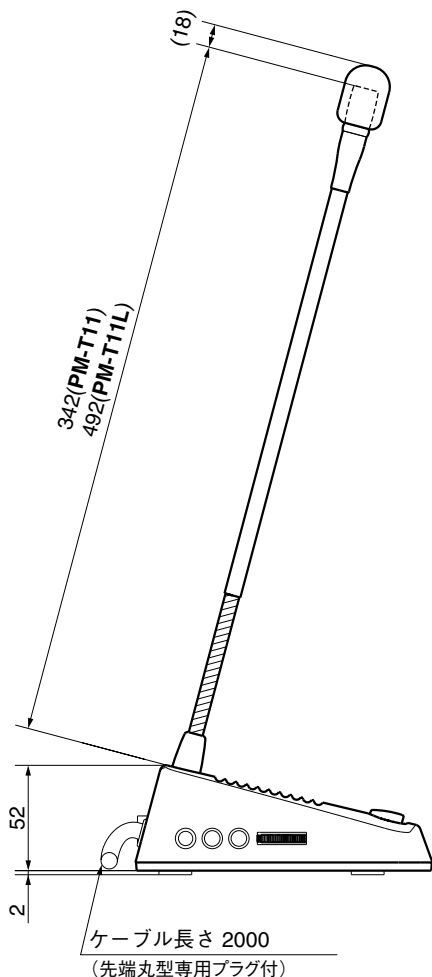
操作ボタン	発言ボタン、発言者解除ボタン
表示ランプ	発言表示、発言者解除表示
マイク	バックエレクトレットコンデンサー型、単一指向性、ランプ付き
マイク感度	-47dB（0dB=1V/Pa,1kHz）
会議ライン出力	丸型専用プラグ付ケーブル 2m
会議ライン入力	丸型専用コネクター
DC電源	+24V、0V（デジタルコントロールユニット **PM-M110** より受電）
マイク音声	H、C（電子平衡） 入力:+4dBs/5kΩ、出力:+4dBs/100Ω
モニター音声	H、C（電子平衡） +4dBs/30kΩ入力（入力-出力間はスルー）
シリアル通信	RS-485 準拠
オーディオ部	
マイクアンプ入力	-60dBs/1kΩ、不平衡（半固定ボリューム付）
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック×2、3mW
録音出力	ステレオミニジャック、0dB/600Ω
モニター	0.1W
音量調節器	付（ヘッドホン出力、モニター音量共用）
周波数特性（1kHz基準）	マイク入力: 50Hz -6dB±2dB、15kHz -1dB±2dB ヘッドホン出力、録音出力、モニター: 100Hz～10000Hz 0dB±2dB
電源	DC24V、70mA （デジタルコントロールユニット**PM-M110**より受電）
外形寸法	幅150mm×高さ400mm×奥行145mm（**PM-T10**） 幅150mm×高さ550mm×奥行145mm（**PM-T10L**）
仕上	ダークグレー （日塗工YN-30（1999年版）近似） （マンセルN3近似） マイク部:黒色（亜鉛メッキ）
質量	0.65kg
付属品	風防×1

■ 外観寸法図 単位:mm

3. メンバーターミナルユニット PM-T11/T11L

■ 定 格

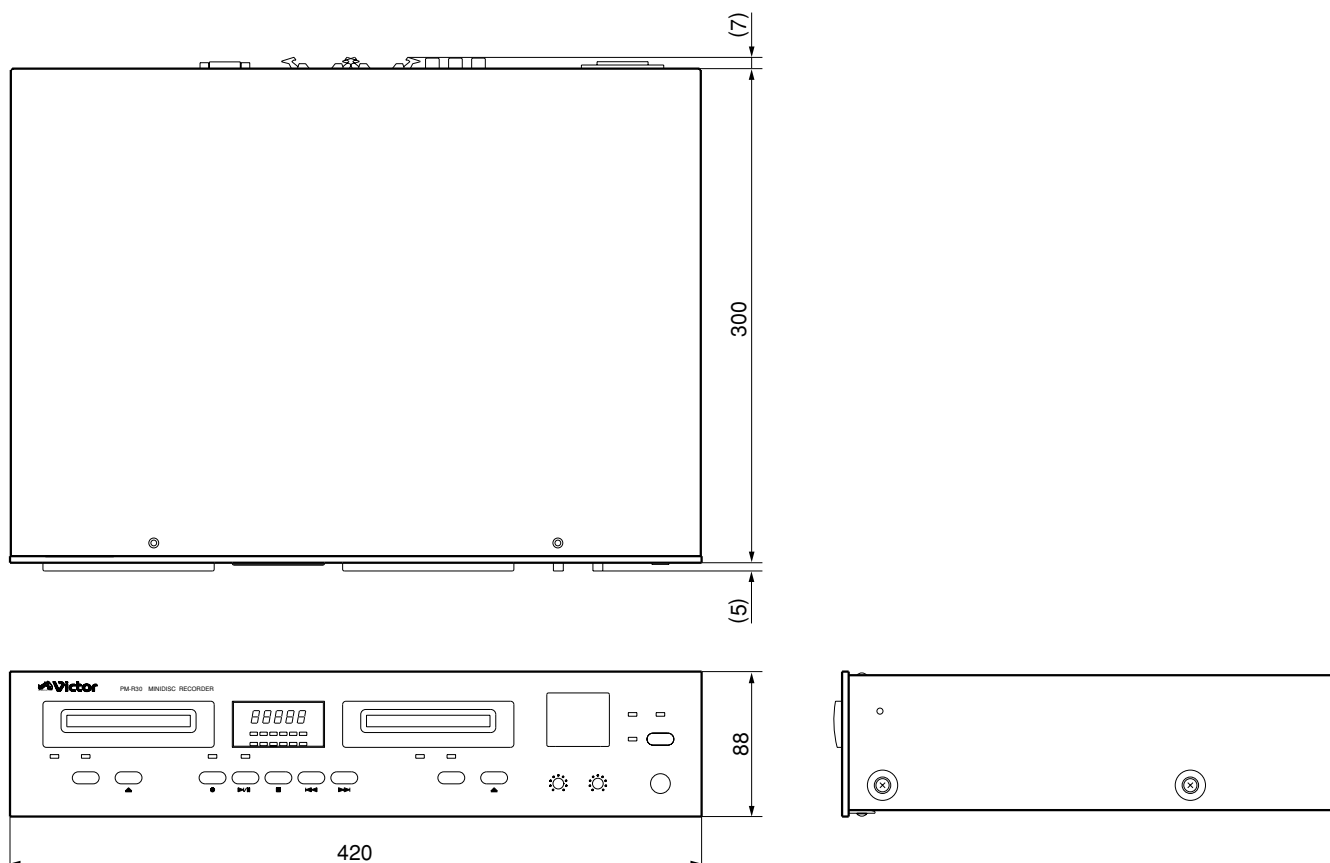
操作ボタン	発言ボタン
表示ランプ	発言表示
マイク	バックエレクトレットコンデンサー型、 単一指向性、ランプ付き
マイク感度	-47dB（0dB=1V/Pa,1kHz）
会議ライン出力	丸型専用プラグ付ケーブル 2m
会議ライン入力	丸型専用コネクター
DC 電源	+24V、0V（デジタルコントロール ユニット **PM-M110** より受電）
マイク音声	H、C（電子平衡） 入力:+4dBs/5kΩ、出力:+4dBs/100Ω
モニター音声	H、C（電子平衡） +4dBs/30kΩ入力（入力-出力間はスルー）
シリアル通信	RS-485 準拠

オーディオ部	
マイクアンプ入力	-60dBs/1kΩ、不平衡 （半固定ボリューム付）
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック×2、3mW
録音出力	ステレオミニジャック、0dB/600Ω
モニター	0.1W
音量調節器	付（ヘッドホン出力、モニター音量共用）
周波数特性 （1kHz基準）	マイク入力: 50Hz -6dB±2dB、15kHz -1dB±2dB ヘッドホン出力、録音出力、モニター: 100Hz〜10000Hz 0dB±2dB
電源	DC24V、70mA （デジタルコントロールユニット**PM-M110**より受電）
外形寸法	幅150mm×高さ400mm×奥行145 mm（**PM-T11**） 幅150mm×高さ550mm×奥行145 mm（**PM-T11L**）
仕上	ダークグレー （日塗工YN-30（1999年版）近似） （マンセルN3近似） マイク部:黒色（亜鉛メッキ）
質量	0.65kg
付属品	風防×1

■ 外観寸法図　単位:mm

4. MD レコーダー PM-R30

■ 定　格

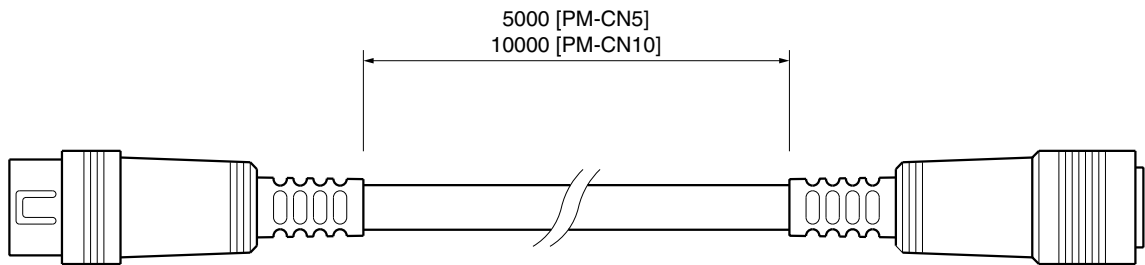
形式	ミニディスクデジタルオーディオシステム
記録方式	磁界変調オーバーライト方式
信号読取方式	非接触光学方式
サンプリング周波数	44.1kHz
音声圧縮方式	ATRAC 方式
チャンネル数	2チャンネル（L,R）またはモノラル
録音時間	295分（74分タイプMD2枚使用、モノラル連続録音時） （ステレオ時は 74 分× 2 枚）
ダビング	本機内では不可
周波数特性（1kHz 基準）	20Hz ～ 20000Hz −1 ± 3dB
S　N　比	80dB 以上
ワウフラッター	測定限界（±0.001%W,PEAK）以下
入力端子	RCA ピンジャック （入力L,R、順送り出力L,R） − 10dBs/5k Ω（不平衡）
出力端子	RCA ピンジャック（L,R） − 6dBs/100 Ω（不平衡）
ヘッドホン出力	3mW
パソコンとの接続	D-sub9 ピンコネクター （RS-232C 準拠）
MDレコーダーとの接続	10ピンコネクター（RS-485準拠）
電源	AC100V50Hz/60Hz
消費電力	15W（電気用品取締法基準）
使用温度範囲	5℃～ 35℃
外形寸法	幅 420mm ×高さ 88mm ×奥行 300mm （突起物含まず）
仕上げ	黒色アルマイト仕上（マンセルN1近似）
質量	5.9kg
付属品	RCA ピンケーブル× 1 フラットケーブル（10P）× 1 電源コード× 1 ラックマウント金具× 2 （EIA19インチラック取り付け可能） M4 ねじ× 4、M5 ねじ× 4

主な仕様

■ 外観寸法図　単位：mm

5. 延長ケーブル PM-CN5/CN10

■ 定　格

機種名	ケーブル長（L）
PM-CN5	5m
PM-CN10	10m

■ 外観寸法図　単位：mm

廃棄について、省エネについて

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適正に処理してください。
長時間ご使用にならない場合は、省エネルギーのため電源を切ってください。

保証とアフターサービス

保　証　書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。
「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保　証　期　間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

この期間は、通産省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは　出張修理

異常のあるときは、お手数でももう一度、各部の接続、つまみの位置についてお調べください。
それでも具合が悪いときは、電源プラグを抜いて使用を中止し、お買い上げの販売店またはビクターサービス窓口に修理をご依頼ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　名	デジタル会議システム
型　名	PM-1000シリーズ
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　－

最寄りのビクターサービス窓口	☎（　　）　－